

総務委員会資料

屋内スポーツ施設のあり方調査及び新アリーナの検討状況について

- 屋内スポーツ施設のあり方調査について . . . 資料1
- 新アリーナの検討状況について . . . 資料2

令和元年11月19日
文化・スポーツ部

屋内スポーツ施設のあり方調査について

I 屋内スポーツ施設の実態調査

- 1 屋内スポーツ施設の概要・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 3
 - (1) 屋内スポーツ施設
 - (2) 屋内スポーツ施設の立地状況
 - (3) 屋内スポーツ施設の設置目的及び機能
- 2 屋内スポーツ施設の利用実態・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 8
 - (1) 過去10年間の利用者数とその傾向
 - (2) 施設の利用実態及びその傾向（施設利用団体アンケート結果）

II 屋内スポーツ施設の利用者ニーズ（施設利用者個人アンケート結果）

- 1 総合体育館及び地区体育館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 17
- 2 武道館・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 27

III 実態調査・利用者アンケートのまとめ・・・・・・・・・・・・・・・・ 31

IV 屋内スポーツ施設を取り巻く環境

- 1 人口推移及び将来予測・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 33
 - (1) 総人口の減少
 - (2) 校区別の人口予測
- 2 財政状況・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 36
 - (1) 歳入歳出決算額の推移
 - (2) 公共施設維持更新費用の今後の見通し
- 3 スポーツを取り巻く今後の見通し・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 38
 - (1) スポーツへの関心の高まり
 - (2) 学校体育施設と民間スポーツ施設

V 屋内スポーツ施設のあり方

- 1 基本的な考え方・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 41
- 2 屋内スポーツ施設の今後の方向性・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・・ 42

I 屋内スポーツ施設の実態調査

1 屋内スポーツ施設の概要

(1) 屋内スポーツ施設

本市には、市民の利用はもとより全国規模の大会やプロスポーツの興行にも利用される総合体育館、夏はプール・冬はアイススケートと季節に応じたスポーツを楽しむことができる屋内プール・アイスアリーナ（アクアリーナ豊橋）、地域・地区ごとに主に市民の体力向上や健康増進に利用される地区体育館（10館）、剣道や柔道といった武道の利用に供される武道館など、市民の日常的な活動から大規模な大会まで様々な用途で利用が可能な屋内スポーツ施設があります。

これらの施設の多くは、1970年代から1990年代前半に整備されており、竣工から最も経過している屋内スポーツ施設が武道館、続いて前田南地区体育館、新栄地区体育館、牛川地区体育館、草間地区体育館の順となっています。〔図表 I-1〕

〔図表 I-1〕 屋内スポーツ施設の概要

(単位：千円)

施設名	竣工年	建設費	維持費 (A)	利用料 (B)	(A) - (B)
総合体育館	1988年 (S63)	3,970,000	92,640	18,943	△73,697
前田南地区体育館	1973年 (S48)	80,870	2,690	2,577	△113
新栄地区体育館	1974年 (S49)	90,560	3,800	2,032	△1,768
牛川地区体育館	1981年 (S56)	211,800	5,350	2,061	△3,289
草間地区体育館	1983年 (S58)	200,080	3,880	2,129	△1,751
飯村地区体育館	1984年 (S59)	233,820	5,500	2,314	△3,186
下五井地区体育館	1988年 (S63)	276,830	7,210	2,021	△5,189
浜道地区体育館	1989年 (H1)	223,780	9,800	2,528	△7,272
二川地区体育館	1990年 (H2)	308,600	7,190	1,948	△5,242
石巻地区体育館	1991年 (H3)	404,120	7,980	1,718	△6,262
大清水地区体育館	1993年 (H5)	486,000	7,990	2,237	△5,753
武道館	1972年 (S47)	168,630	6,990	3,638	△3,352
屋内プール・アイスアリーナ	2005年 (H17)	5,965,000	136,860	51,750	△85,110

※竣工年および維持費は豊橋市公共施設白書、建設費は市政概要から出典

※維持費・利用料については平成27年～29年度の3ヵ年における平均値（千円/年）

(2) 屋内スポーツ施設の立地状況

総合体育館や屋内プール・アイスアリーナは、国道23号に近接している豊橋総合スポーツ公園内に立地していることから、浜松市、湖西市、豊川市、蒲郡市、田原市といった近隣市町村からも多くの方が車で来場しています。

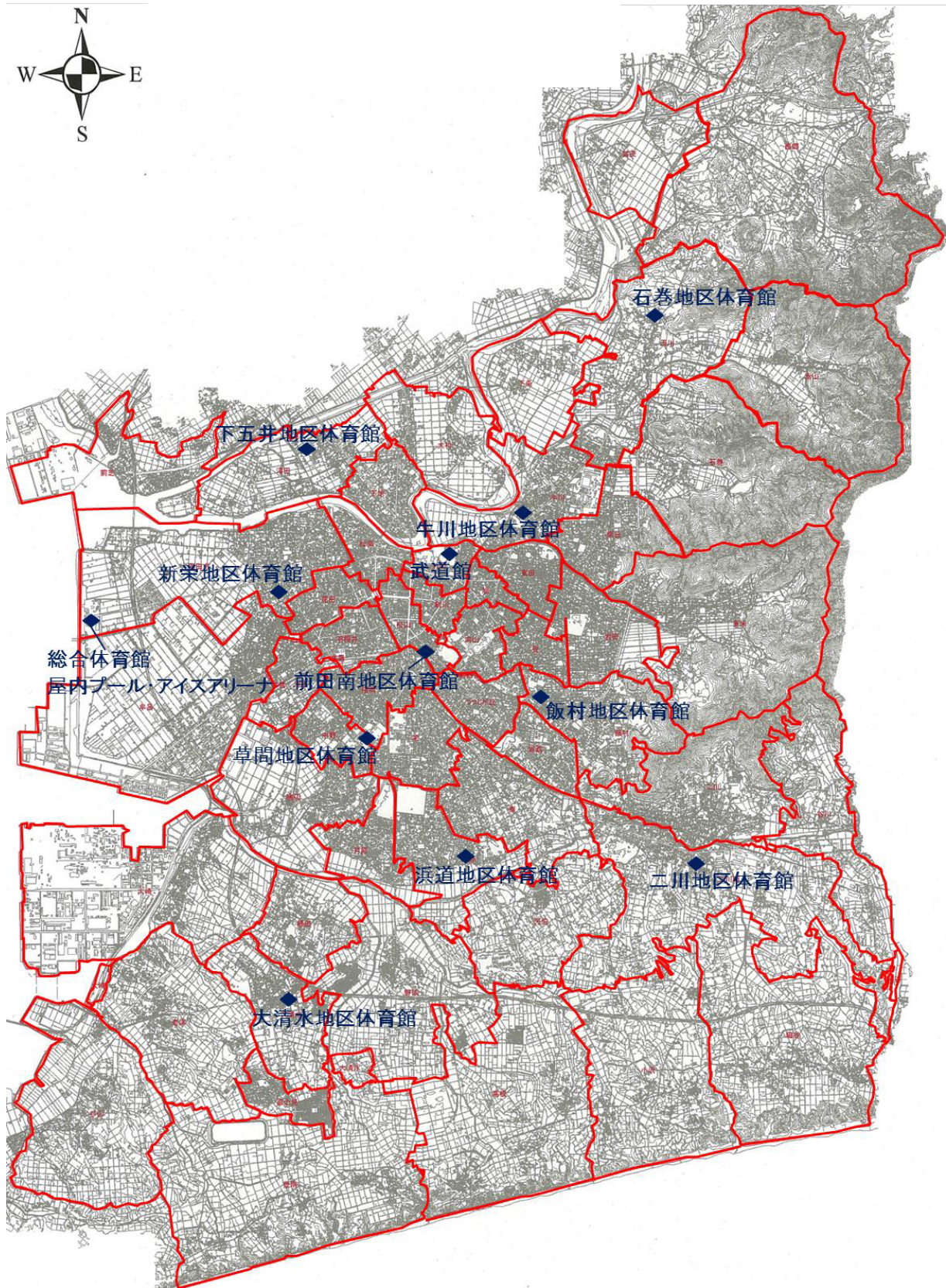
地区体育館は、市民が主として利用する施設で市内10箇所に配置されており、駐車場の設置数などから考えると、必ずしも遠方からの交通利便性が高い訳ではありません。しかしながら、豊橋市民以外でも施設の利用が可能であるため、下五井地区体育館、石巻地区体育館、大清水地区体育館などでは他市町村の方も利用しています。

武道館は、市内唯一の武道専用の社会体育施設で、市内中心部である豊橋公園内に立地しています。〔図表I-2、図表I-3〕

〔図表I-2〕屋内スポーツ施設の自治会ブロック別配置状況

ブロック名	校区名	H27 国調人口	スポーツ施設
第1ブロック	石巻、西郷、玉川、嵩山、賀茂	13,319人	石巻地区体育館
第2ブロック	東田、旭、牛川、下条、鷹丘	36,594人	牛川地区体育館
第3ブロック	岩田、豊、多米、岩西、つっじが丘、飯村	65,043人	飯村地区体育館
第4ブロック	八町、松葉、松山、新川、向山	29,007人	前田南地区体育館、武道館
第5ブロック	二川、二川南、谷川、小沢、細谷	25,501人	二川地区体育館
第6ブロック	富士見、高根、老津、杉山、豊南	20,605人	—
第7ブロック	福岡、栄、中野、磯辺、天伯、幸	68,872人	草間地区体育館
第8ブロック	高師、芦原、大崎、植田、野依、大清水	42,686人	浜道地区体育館 大清水地区体育館
第9ブロック	花田、羽根井、吉田方、牟呂、汐田	55,248人	新栄地区体育館、総合体育館 屋内プール・アイスアリーナ
第10ブロック	下地、大村、津田、前芝	17,890人	下五井地区体育館

〔図表 I-3〕 屋内スポーツ施設位置図



(3) 屋内スポーツ施設の設置目的及び機能

本市の屋内スポーツ施設は「市民が身近にスポーツに親しむことができるようにするとともに競技水準の向上を図る」ことを設置目的としています。施設ごとに様々なスポーツを行うことができるのはもちろんのこと、総合型地域スポーツクラブの事務局が置かれている、避難所に指定されているなどスポーツをする以外の機能を持った施設もあります。

また、施設の立地場所や土地面積、改修の実施状況などの理由から、駐車場の台数や施設内のバリアフリー対応に差がある状況となっています。〔図表 I-4、I-5〕

〔図表 I-4〕 屋内スポーツ施設のバリアフリー等の状況

施設名	土地面積	延床面積計	バリアフリー					駐車場台数	備考
			出入口	廊下	スロープ	E V	トイレ		
総合体育館	244,500.00 m ²	12,584.49 m ²	○	△	△	○	△	410台	総合スポーツ公園内
前田南地区体育館	1,764.90 m ²	1,224.00 m ²	△	△	×	—	×	20台	指定避難所
新栄地区体育館	2,535.00 m ²	1,116.50 m ²	○	△	×	—	×	65台	KOZOTTE 利用
牛川地区体育館	3,461.44 m ²	1,313.86 m ²	○	△	△	—	×	28台	RYOZ 利用
草間地区体育館	2,571.70 m ²	1,301.88 m ²	○	△	△	—	×	25台	FINS 利用 南陽地区市民館隣接
飯村地区体育館	3,698.19 m ²	1,350.03 m ²	○	△	△	—	×	60台	
下五井地区体育館	4,825.75 m ²	1,441.50 m ²	○	△	△	—	△	88台	
浜道地区体育館	6,698.58 m ²	1,413.07 m ²	○	△	△	—	×	80台	本郷地区市民館併設 指定避難所
二川地区体育館	3,521.47 m ²	1,443.86 m ²	○	△	△	—	△	39台	二川中学校隣接
石巻地区体育館	4,898.95 m ²	1,444.81 m ²	○	△	△	—	△	91台	SKITS 利用
大清水地区体育館	5,410.10 m ²	1,537.03 m ²	○	△	△	—	△	83台	
武道館	216,401.00 m ²	3,038.56 m ²	○	△	△	×	×	40台	豊橋公園内
屋内プール・アイスアリーナ	244,500.00 m ²	11,644.33 m ²	○	○	○	○	○	192台	総合スポーツ公園内

(豊橋市公共施設白書を参考に作成)

※「総合体育館」「武道館」「屋内プール・アイスアリーナ」の土地面積については、公園全体の面積を表しています。
 ※バリアフリー法（建築物移動等円滑化基準）に基づき項目ごとに内容をすべて満たす場合は「○」、一部を満たす場合は「△」、満たさない場合は「×」としています。

〔図表 I-5〕 屋内スポーツ施設の利用可能種目一覧

施設名	利用可能種目															
	ハンドボール	バレーボール	バドミントン	バスケットボール	卓球	フットサル	体操	競泳	幼児子どもプール	レクリエーション	スポーツジム	アイススケート	剣道	柔道	空手	相撲
総合体育館	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	×	×	○	×	○	×
前田南地区体育館	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	○	×	○	×
新栄地区体育館	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	○	×	○	×
牛川地区体育館	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	○	×	○	×
草間地区体育館	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	×	×	○	×	○	×
飯村地区体育館	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	△	×	○	×	○	×
下五井地区体育館	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	△	×	○	×	○	×
浜道地区体育館	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	△	×	○	×	○	×
二川地区体育館	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	△	×	○	×	○	×
石巻地区体育館	○	○	○	○	○	○	×	×	×	○	△	×	○	×	○	×
大清水地区体育館	×	○	○	○	○	×	×	×	×	○	△	×	○	×	○	×
武道館	×	×	×	×	×	×	×	×	×	○	○	×	○	○	○	○
屋内プール・アイスアリーナ	×	×	×	×	×	×	×	○	△	×	○	○	×	×	×	×

(豊橋市公共施設白書を参考に作成)

※地区体育館のスポーツジムについては軽度なトレーニング利用が可能となっています。

※屋内プール・アイスアリーナの幼児子どもプールについては、専用プールはないが可動床を作動することによって利用可能となっています。

2 屋内スポーツ施設の利用実態

(1) 過去 10 年間の利用者数とその傾向

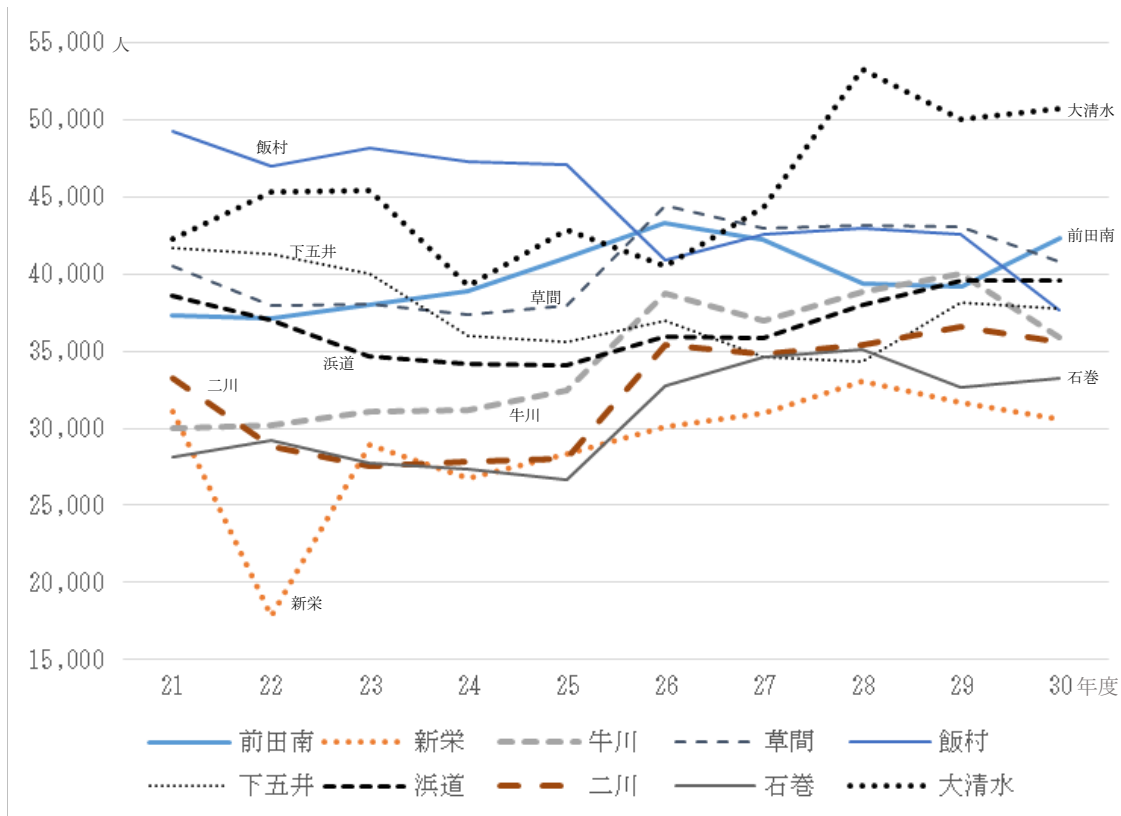
■地区体育館

地区体育館 10 館全体の利用者数は、平成 28 年度に 393,626 人と過去最高の利用実績となりましたがその後減少に転じています。個々にみると、それぞれ毎年約 30,000 人～50,000 人の実績で推移しています。10 年間の平均の利用者数においては、大清水地区体育館が最も多く、続いて飯村地区体育館、草間地区体育館の順となっています。

〔図表 I-6、I-7〕

- ・前田南地区体育館・・・平成 21 年度の 37,328 人から微増傾向にあります。
- ・新栄地区体育館・・・平成 22 年度の工事に伴う利用者数の減を除き 30,000 人前後で推移しています。
- ・牛川地区体育館・・・平成 21 年度から平成 25 年度までは 30,000 人前後で推移していましたが、平成 26 年度以降は 35,000 人を超える実績で推移しています。
- ・草間地区体育館・・・平成 22 年度から平成 25 年度までは 30,000 人台後半で推移していましたが、平成 26 年度以降は 40,000 人を超える実績で推移しています。
- ・飯村地区体育館・・・平成 21 年度の 49,247 人から徐々に減少し、ここ数年は 40,000 人前後で推移しています。
- ・下五井地区体育館・・・平成 21 年度の 41,707 人から徐々に減少していましたが、平成 29 年度以降は増加に転じています。
- ・浜道地区体育館・・・平成 21 年度の 38,606 人から徐々に減少していましたが、平成 28 年度以降は増加に転じています。
- ・二川地区体育館・・・平成 21 年度から平成 25 年度までは 30,000 人前後で推移していましたが、平成 26 年度以降は 35,000 人前後に増加しています。
- ・石巻地区体育館・・・平成 21 年度から平成 25 年度までは 20,000 人台後半で推移していましたが、平成 26 年度以降は 30,000 人を超える人数で推移しています。
- ・大清水地区体育館・・・平成 28 年度以降は 50,000 人を超えるようになり、現在最も利用者の多い地区体育館となっています。

〔図表 I-6〕 地区体育館利用者数の年度別推移



〔図表 I-7〕 地区体育館の年度別利用実績とその平均

(単位：人)

年度	前田南	新栄	牛川	草間	飯村	下五井	浜道	二川	石巻	大清水	合計
21	37,328	31,127	29,958	40,474	49,247	41,707	38,606	33,238	28,101	42,262	372,048
22	37,091	17,848	30,149	37,949	46,961	41,306	37,045	28,822	29,250	45,267	351,688
23	37,976	28,894	31,066	38,046	48,120	39,985	34,674	27,565	27,753	45,374	359,453
24	38,902	26,782	31,154	37,376	47,305	35,992	34,189	27,811	27,314	39,194	346,019
25	41,008	28,373	32,446	37,927	47,111	35,624	34,091	28,010	26,666	42,829	354,085
26	43,267	30,116	38,749	44,441	40,863	36,934	35,930	35,389	32,759	40,481	378,929
27	42,219	31,001	36,946	42,951	42,546	34,644	35,806	34,837	34,652	44,362	379,964
28	39,344	33,038	38,879	43,198	42,959	34,362	38,034	35,389	35,116	53,307	393,626
29	39,190	31,686	39,968	43,010	42,545	38,140	39,556	36,555	32,688	50,012	393,350
30	42,337	30,617	35,894	40,814	37,636	37,764	39,600	35,592	33,224	50,745	384,223
平均	39,866	28,948	34,521	40,619	44,529	37,646	36,753	32,321	30,752	45,383	371,339

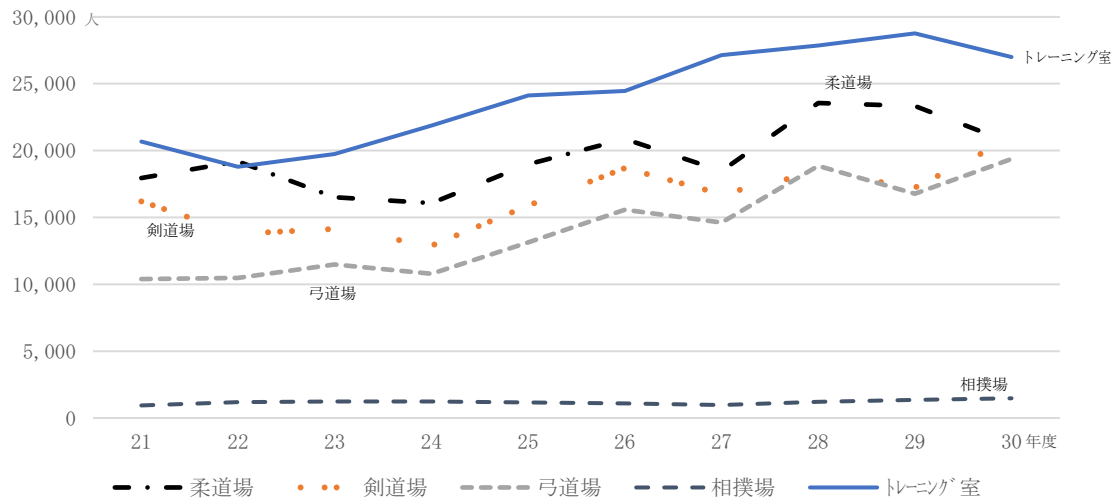
■ 武道館

全体の利用者数は平成 21 年度以降 60,000 人台で推移していましたが、平成 25 年度以降増加に転じており、平成 28 年度以降は 90,000 人に近い利用者数で推移しています。

〔図表 I-8、I-9〕

- ・柔道場・・・増加の傾向にあり平成 28 年度以降は 20,000 人を超えています。
- ・剣道場・・・増加の傾向にあり平成 30 年度ではここ 10 年で最も多い 20,944 人となっています。
- ・弓道場・・・増加の傾向にあり平成 28 年度以降は 15,000 人を超えています。
- ・相撲場・・・増加の傾向にあり平成 30 年度ではここ 10 年で最も多い 1,473 人となっています。
- ・トレーニング室・・・増加の傾向にあり平成 27 年度以降は 25,000 人を超えています。

〔図表 I-8〕 武道館利用者数の年度別推移



〔図表 I-9〕 武道館の年度別利用実績とその平均

(単位：人)

年度	柔道場	剣道場	弓道場	相撲場	トレーニング室	合計
21	17,959	16,196	10,392	940	20,681	66,168
22	19,181	13,784	10,466	1,188	18,791	63,410
23	16,511	14,138	11,484	1,233	19,732	63,098
24	16,074	12,888	10,783	1,225	21,867	62,837
25	18,972	15,890	13,124	1,168	24,115	73,269
26	20,870	18,691	15,585	1,079	24,472	80,697
27	18,477	16,754	14,623	976	27,145	77,975
28	23,559	18,394	18,867	1,221	27,851	89,892
29	23,330	17,236	16,779	1,354	28,768	87,467
30	20,565	20,944	19,374	1,473	27,001	89,357
平均	19,550	16,492	14,148	1,186	24,042	75,417

■総合体育館

全体の利用者数は平成 21 年度から平成 24 年度までは 150,000 人前後で推移していましたが、平成 26 年度以降 200,000 人を超えるなど増加の傾向がみられます。〔図表 I-10、I-11〕

- ・スポーツ（第一・第二競技場）・・・三遠ネオフェニックスのホームゲームが 6 試合から 24 試合へと増えたこともあり平成 28 年度以降大きく増加に転じています。
- ・会議室・・・・・・・・平成 22 年度の 12,802 人以降減少傾向が続いています。
- ・卓球室・・・・・・・・平成 22 年度以降増加の傾向が続いています。
- ・その他・・・・・・・・2 年に 1 回「ものづくり博」が開催されること等の影響から利用者数の増減がみられます。

〔図表 I-10〕 スポーツ（第一・第二競技場）におけるスポーツ利用者数の年度別推移



〔図表 I-11〕 総合体育館の年度別利用実績とその平均

(単位：人)

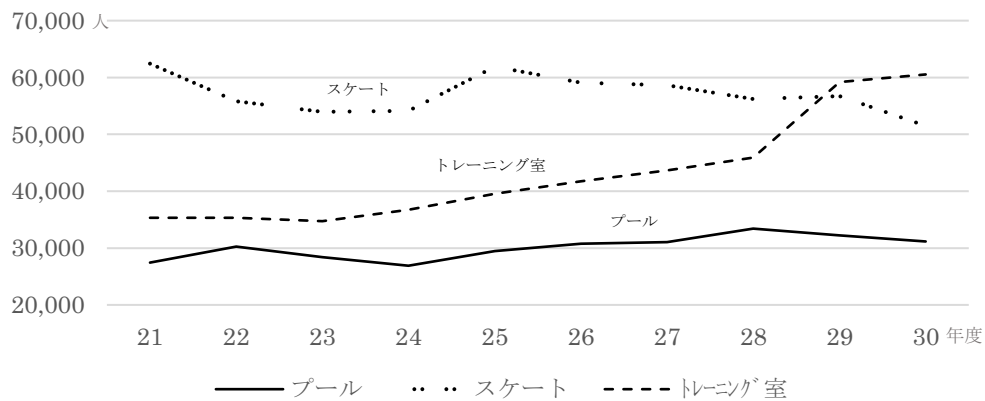
年度	スポーツ(第一・第二競技場)	会議室	卓球室	その他	合計
21	125,995	12,744	9,087	14,750	162,576
22	129,859	12,802	8,187	11,865	162,713
23	119,932	7,508	8,411	7,000	142,851
24	127,898	9,169	8,664	25,502	171,233
25	135,994	8,476	10,459	2,480	157,409
26	149,405	8,582	11,645	49,448	219,080
27	162,342	8,966	13,566	4,205	189,079
28	190,889	7,546	14,459	28,395	241,289
29	173,950	7,553	14,865	4,780	201,148
30	191,018	7,401	14,159	25,450	238,028
平均	150,728	9,075	11,350	17,388	188,541

■屋内プール・アイスアリーナ

全体の利用者数は平成 21 年度から平成 24 年度までは 120,000 人前後で推移していましたが、平成 25 年度以降増加の傾向がみられます。〔図表 I-12、I-13〕

- ・プール・・・平成 21 年度以降 30,000 人前後で推移しています。
- ・スケート・・・冬季オリンピックの開催年度である平成 21・25・29 年度に増える傾向がありますが、全体としてはやや減少傾向にあります。
- ・トレーニング室・・・増加傾向にあり平成 30 年度には平成 21 年度の約 1.7 倍の 60,535 人となっています。

〔図表 I-12〕 屋内プール・アイスアリーナ利用者数の年度別推移



〔図表 I-13〕 屋内プール・アイスアリーナの年度別利用実績とその平均 (単位：人)

年度	プール	スケート	トレーニング室	合計
21	27,469	62,435	35,330	125,234
22	30,252	55,841	35,325	121,418
23	28,396	53,961	34,731	117,088
24	26,892	54,151	36,718	117,761
25	29,496	61,876	39,544	130,916
26	30,780	59,062	41,757	131,599
27	31,057	58,620	43,647	133,324
28	33,421	56,242	45,900	135,563
29	32,201	56,723	59,197	148,121
30	31,167	51,496	60,535	143,198
平均	30,113	57,041	43,268	130,422

(2) 施設の利用実態及びその傾向 (施設利用団体アンケート結果)

既設の体育館の利用目的(種目)や利用頻度、さらには利用時間帯などの実態をつかみ、今後の屋内スポーツ施設のあり方を検討する際の参考にするため、施設利用者(団体)に対してアンケート調査を行いました。なお、武道館については回答数が少なかったため今回の実態分析調査には含めていません。屋内プール・アイスアリーナについては、今後、スケート利用者を含めた分析を行う予定です。

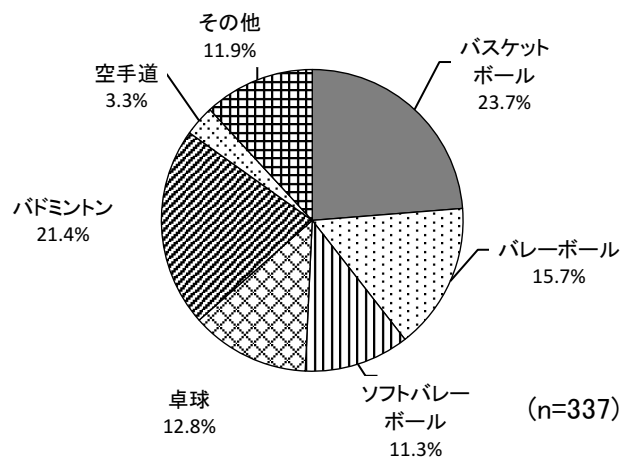
- ◇アンケート実施期間 2019年5月17日(金)から7月31日(水)まで
- ◇実施方法 施設利用時に利用団体代表者を対象に紙アンケート
- ◇回答数 346

■体育館の利用目的(種目)

- ・最も多い利用種目はバスケットボール(約24%)、次いでバドミントン(約21%)となっています。しかしながら、バレーボールとソフトバレーボールを括るとバレーボールがトップの割合(約27%)となります。[図表I-14]
- ・主な利用種目が地区体育館ごとに異なるなどの特徴がみられます。[図表I-15]
- ・その他の中には、太極拳、ダンス、健康体操などがみられました。

[図表I-14] 利用目的(種目)

項目	回答数	割合(%)
1 バスケットボール	80	23.7
2 バレーボール	53	15.7
3 ソフトバレーボール	38	11.3
4 卓球	43	12.8
5 バドミントン	72	21.4
6 空手道	11	3.3
7 その他	40	11.9
合計(有効回答数)	337	-
無回答	9	-



[図表I-15] 施設ごとの利用目的(種目)

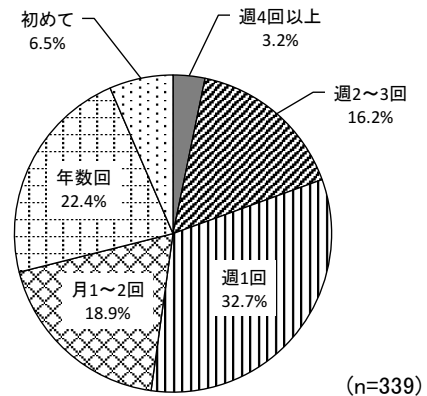
項目	バスケットボール	バレーボール	ソフトバレーボール	卓球	バドミントン	空手道	その他	合計
1 総合体育館	1 (1.3%)	2 (3.8%)	1 (2.6%)	1 (2.3%)	-	1 (9.1%)	3 (7.5%)	9 (2.7%)
2 前田南地区体育館	8 (10.0%)	8 (15.1%)	4 (10.5%)	10 (23.3%)	4 (5.6%)	-	3 (7.5%)	37 (11.0%)
3 新栄地区体育館	7 (8.8%)	5 (9.4%)	2 (5.3%)	2 (4.7%)	12 (16.7%)	3 (27.3%)	6 (15.0%)	37 (11.0%)
4 牛川地区体育館	4 (5.0%)	5 (9.4%)	8 (21.1%)	4 (9.3%)	14 (19.4%)	1 (9.1%)	2 (5.0%)	38 (11.3%)
5 草間地区体育館	16 (20.0%)	6 (11.3%)	3 (7.9%)	4 (9.3%)	7 (9.7%)	1 (9.1%)	3 (7.5%)	40 (11.9%)
6 飯村地区体育館	3 (3.8%)	2 (3.8%)	-	4 (9.3%)	4 (5.6%)	1 (9.1%)	2 (5.0%)	16 (4.7%)
7 下五井地区体育館	11 (13.8%)	5 (9.4%)	3 (7.9%)	4 (9.3%)	9 (12.5%)	1 (9.1%)	2 (5.0%)	35 (10.4%)
8 浜道地区体育館	2 (2.5%)	2 (3.8%)	-	5 (11.6%)	8 (11.1%)	1 (9.1%)	3 (7.5%)	21 (6.2%)
9 二川地区体育館	6 (7.5%)	5 (9.4%)	3 (7.9%)	2 (4.7%)	6 (8.3%)	1 (9.1%)	3 (7.5%)	26 (7.7%)
10 石巻地区体育館	14 (17.5%)	9 (17.0%)	14 (36.8%)	4 (9.3%)	2 (2.8%)	1 (9.1%)	12 (30.0%)	56 (16.6%)
11 大清水地区体育館	8 (10.0%)	4 (7.5%)	-	3 (7.0%)	6 (8.3%)	-	1 (2.5%)	22 (6.5%)
合計(有効回答数)	80	53	38	43	72	11	40	337

■ 体育館の利用頻度

- ・全体で最も多い回答は週1回利用（約33%）となっており、地区体育館と総合体育館との比較では、総合体育館よりも地区体育館の方がリピーターの多い傾向があります。また、市境に近い下五井、石巻、大清水は年数回の利用割合が他と比べて高くなっています。〔図表 I-16、I-17〕
- ・卓球、バドミントン、空手道は週1回、週2～3回利用の割合が他と比べて高く、地区体育館を拠点として活動していることが推測されます。〔図表 I-18〕
- ・バレーボール、ソフトバレーボールは年数回利用の割合が他と比べて高く、試合や大会で短期的に利用していることが推測されます。〔図表 I-18〕

〔図表 I-16〕 利用頻度

	項目	回答数	割合(%)
1	週4回以上	11	3.2
2	週2～3回	55	16.2
3	週1回	111	32.7
4	月1～2回	64	18.9
5	年数回	76	22.4
6	初めて	22	6.5
	合計(有効回答数)	339	-
	無回答	7	-



〔図表 I-17〕 施設ごとの利用頻度

項目	総合体育館	前田南地区体育館	新築地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1 週4回以上	-	1 (2.6%)	1 (2.7%)	1 (2.7%)	3 (7.7%)	-	2 (5.4%)	-	1 (4.0%)	2 (3.5%)	-	11 (3.2%)
2 週2～3回	-	4 (10.5%)	5 (13.5%)	6 (16.2%)	5 (12.8%)	3 (18.8%)	4 (10.8%)	7 (33.3%)	7 (28.0%)	9 (15.8%)	5 (21.7%)	55 (16.2%)
3 週1回	1 (11.1%)	14 (36.8%)	11 (29.7%)	14 (37.8%)	13 (33.3%)	7 (43.8%)	10 (27.0%)	12 (57.1%)	9 (36.0%)	12 (21.1%)	8 (34.8%)	111 (32.7%)
4 月1～2回	4 (44.4%)	13 (34.2%)	10 (27.0%)	8 (21.6%)	4 (10.3%)	3 (18.8%)	6 (16.2%)	-	3 (12.0%)	11 (19.3%)	2 (8.7%)	64 (18.9%)
5 年数回	3 (33.3%)	3 (7.9%)	5 (13.5%)	6 (16.2%)	8 (20.5%)	3 (18.8%)	13 (35.1%)	2 (9.5%)	3 (12.0%)	22 (38.6%)	8 (34.8%)	76 (22.4%)
6 初めて	1 (11.1%)	3 (7.9%)	5 (13.5%)	2 (5.4%)	6 (15.4%)	-	2 (5.4%)	-	2 (8.0%)	1 (1.8%)	-	22 (6.5%)
合計(有効回答数)	9	38	37	37	39	16	37	21	25	57	23	339

〔図表 I-18〕 種目ごとの利用頻度

項目	バスケットボール	バレーボール	ソフトバレーボール	卓球	バドミントン	空手道	その他	合計
1 週4回以上	2 (2.5%)	-	1 (2.6%)	5 (11.9%)	1 (1.4%)	1 (9.1%)	1 (2.6%)	11 (3.3%)
2 週2～3回	13 (16.3%)	4 (7.7%)	2 (5.3%)	13 (31.0%)	16 (22.2%)	2 (18.2%)	5 (12.8%)	55 (16.5%)
3 週1回	24 (30.0%)	7 (13.5%)	12 (31.6%)	19 (45.2%)	30 (41.7%)	7 (63.6%)	9 (23.1%)	108 (32.3%)
4 月1～2回	19 (23.8%)	12 (23.1%)	7 (18.4%)	5 (11.9%)	14 (19.4%)	1 (9.1%)	6 (15.4%)	64 (19.2%)
5 年数回	19 (23.8%)	19 (36.5%)	13 (34.2%)	-	8 (11.1%)	-	15 (38.5%)	74 (22.2%)
6 初めて	3 (3.8%)	10 (19.2%)	3 (7.9%)	-	3 (4.2%)	-	3 (7.7%)	22 (6.6%)
合計(有効回答数)	80	52	38	42	72	11	39	334

■利用する曜日・時間帯

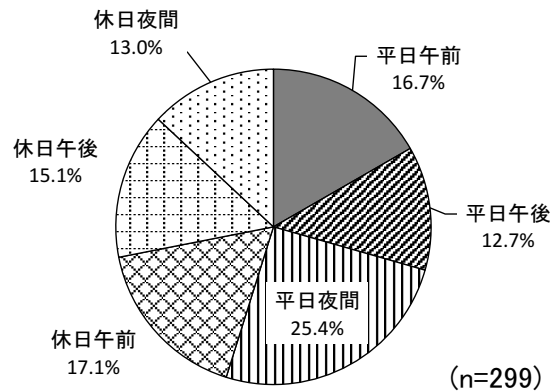
- 総合体育館は主に休日、地区体育館は平日休日区分なく利用される傾向がみられます。

〔図表 I-20〕

- 試合をするのに人数を要するバスケットボール、バレーボール、ソフトバレーボールは、平日夜間と休日に利用されている傾向がみられます。また卓球は平日午前・午後で利用全体の約8割を占めています。〔図表 I-21〕

〔図表 I-19〕 利用時間帯

	項目	回答数	割合(%)
1	平日午前	50	16.7
2	平日午後	38	12.7
3	平日夜間	76	25.4
4	休日午前	51	17.1
5	休日午後	45	15.1
6	休日夜間	39	13.0
	合計(有効回答数)	299	-
	無回答	47	-



〔図表 I-20〕 施設ごとの利用時間帯

項目	総合体育館	前田南地区体育館	新栄地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1 平日午前	1 (12.5%)	6 (18.2%)	4 (12.5%)	8 (22.9%)	8 (21.1%)	2 (15.4%)	4 (11.8%)	7 (36.8%)	4 (20.0%)	2 (4.3%)	4 (20.0%)	50 (16.7%)
2 平日午後	1 (12.5%)	2 (6.1%)	4 (12.5%)	3 (8.6%)	6 (15.8%)	3 (23.1%)	2 (5.9%)	5 (26.3%)	3 (15.0%)	7 (14.9%)	2 (10.0%)	38 (12.7%)
3 平日夜間	1 (12.5%)	6 (18.2%)	8 (25.0%)	9 (25.7%)	12 (31.6%)	1 (7.7%)	7 (20.6%)	3 (15.8%)	6 (30.0%)	22 (46.8%)	1 (5.0%)	76 (25.4%)
4 休日午前	4 (50.0%)	5 (15.2%)	6 (18.8%)	5 (14.3%)	-	3 (23.1%)	10 (29.4%)	1 (5.3%)	3 (15.0%)	10 (21.3%)	4 (20.0%)	51 (17.1%)
5 休日午後	-	9 (27.3%)	6 (18.8%)	6 (17.1%)	8 (21.1%)	3 (23.1%)	4 (11.8%)	2 (10.5%)	1 (5.0%)	2 (4.3%)	4 (20.0%)	45 (15.1%)
6 休日夜間	1 (12.5%)	5 (15.2%)	4 (12.5%)	4 (11.4%)	4 (10.5%)	1 (7.7%)	7 (20.6%)	1 (5.3%)	3 (15.0%)	4 (8.5%)	5 (25.0%)	39 (13.0%)
合計(有効回答数)	8	33	32	35	38	13	34	19	20	47	20	299

〔図表 I-21〕 種目ごとの利用時間帯

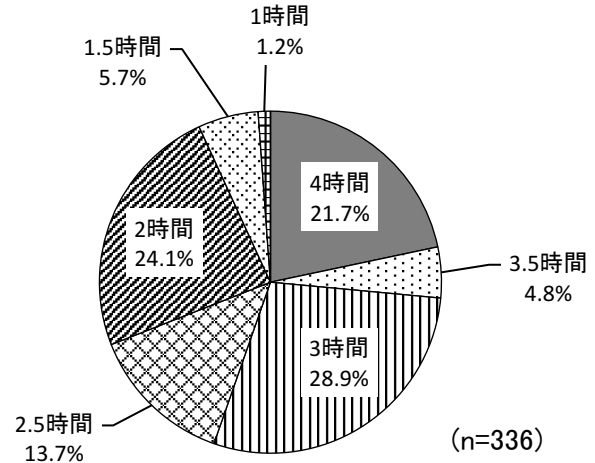
項目	バスケットボール	バレーボール	ソフトバレーボール	卓球	バドミントン	空手道	その他	合計
1 平日午前	2 (3.1%)	1 (2.1%)	5 (13.2%)	20 (52.6%)	18 (28.6%)	-	4 (12.5%)	50 (17.0%)
2 平日午後	6 (9.2%)	6 (12.8%)	2 (5.3%)	9 (23.7%)	5 (7.9%)	1 (9.1%)	7 (21.9%)	36 (12.2%)
3 平日夜間	23 (35.4%)	14 (29.8%)	13 (34.2%)	4 (10.5%)	11 (17.5%)	9 (81.8%)	2 (6.3%)	76 (25.9%)
4 休日午前	11 (16.9%)	12 (25.5%)	4 (10.5%)	3 (7.9%)	7 (11.1%)	-	14 (43.8%)	51 (17.3%)
5 休日午後	11 (16.9%)	8 (17.0%)	7 (18.4%)	2 (5.3%)	12 (19.0%)	-	4 (12.5%)	44 (15.0%)
6 休日夜間	12 (18.5%)	6 (12.8%)	7 (18.4%)	-	10 (15.9%)	1 (9.1%)	1 (3.1%)	37 (12.6%)
合計(有効回答数)	65	47	38	38	63	11	32	294

■実際の活動時間

- ・実際の活動時間で最も多いのは3時間（約29%）であり、次いで2時間（約24%）となっています。また、活動時間が3時間以上である団体が50%以上である反面、2時間以下と答えた団体が約30%存在します。〔図表I-22〕
- ・試合人数を要するバスケットボール、バレーボールは長時間活動する傾向があります。また、ソフトバレーボールはバレーボールよりも活動時間が短い傾向があります。〔図表I-24〕

〔図表I-22〕活動時間

	項目	回答数	割合(%)
1	4時間	73	21.7
2	3.5時間	16	4.8
3	3時間	97	28.9
4	2.5時間	46	13.7
5	2時間	81	24.1
6	1.5時間	19	5.7
7	1時間	4	1.2
8	0.5時間	-	-
	合計(有効回答数)	336	-
	無回答	10	-



〔図表I-23〕施設ごとの活動時間

項目	総合体育館	前田南地区体育館	新栄地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1 4時間	2 (22.2%)	7 (18.4%)	11 (30.6%)	6 (16.2%)	14 (35.9%)	4 (25.0%)	7 (19.4%)	1 (4.8%)	5 (19.2%)	11 (20.0%)	5 (21.7%)	73 (21.7%)
2 3.5時間	-	1 (2.6%)	5 (13.9%)	1 (2.7%)	2 (5.1%)	2 (12.5%)	2 (5.6%)	1 (4.8%)	2 (7.7%)	-	-	16 (4.8%)
3 3時間	2 (22.2%)	16 (42.1%)	6 (16.7%)	12 (32.4%)	9 (23.1%)	4 (25.0%)	18 (50.0%)	6 (28.6%)	10 (38.5%)	9 (16.4%)	5 (21.7%)	97 (28.9%)
4 2.5時間	1 (11.1%)	5 (13.2%)	3 (8.3%)	5 (13.5%)	3 (7.7%)	2 (12.5%)	2 (5.6%)	3 (14.3%)	2 (7.7%)	12 (21.8%)	8 (34.8%)	46 (13.7%)
5 2時間	4 (44.4%)	7 (18.4%)	8 (22.2%)	11 (29.7%)	9 (23.1%)	3 (18.8%)	6 (16.7%)	9 (42.9%)	6 (23.1%)	13 (23.6%)	5 (21.7%)	81 (24.1%)
6 1.5時間	-	2 (5.3%)	3 (8.3%)	1 (2.7%)	2 (5.1%)	1 (6.3%)	1 (2.8%)	-	1 (3.8%)	8 (14.5%)	-	19 (5.7%)
7 1時間	-	-	-	1 (2.7%)	-	-	-	1 (4.8%)	-	2 (3.6%)	-	4 (1.2%)
8 0.5時間	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-
合計(有効回答数)	9	38	36	37	39	16	36	21	26	55	23	336

〔図表I-24〕種目ごとの活動時間

項目	バスケットボール	バレーボール	ソフトバレーボール	卓球	バドミントン	空手道	その他	合計
1 4時間	22 (27.8%)	19 (36.5%)	6 (16.2%)	1 (2.4%)	14 (20.0%)	-	11 (27.5%)	73 (22.1%)
2 3.5時間	5 (6.3%)	2 (3.8%)	1 (2.7%)	3 (7.1%)	3 (4.3%)	1 (9.1%)	-	15 (4.5%)
3 3時間	20 (25.3%)	10 (19.2%)	8 (21.6%)	20 (47.6%)	24 (34.3%)	-	13 (32.5%)	95 (28.7%)
4 2.5時間	9 (11.4%)	9 (17.3%)	2 (5.4%)	12 (28.6%)	9 (12.9%)	-	4 (10.0%)	45 (13.6%)
5 2時間	18 (22.8%)	10 (19.2%)	12 (32.4%)	6 (14.3%)	18 (25.7%)	9 (81.8%)	7 (17.5%)	80 (24.2%)
6 1.5時間	5 (6.3%)	1 (1.9%)	8 (21.6%)	-	2 (2.9%)	1 (9.1%)	2 (5.0%)	19 (5.7%)
7 1時間	-	1 (1.9%)	-	-	-	-	3 (7.5%)	4 (1.2%)
8 0.5時間	-	-	-	-	-	-	-	-
合計(有効回答数)	79	52	37	42	70	11	40	331

II 屋内スポーツ施設の利用者ニーズ（施設利用者個人アンケート結果）

既設の体育館や武道館の広域性や拠点性、利用者の利用料金に対する考え、さらには施設への期待などの傾向をつかみ、今後の屋内スポーツ施設のあり方を検討する際の参考にするため、施設利用者（個人）に対してアンケート調査を行いました。

- ◇アンケート実施期間 2019年5月17日（金）から7月31日（水）まで
- ◇実施方法 施設利用時に利用者（個人）を対象に紙アンケート
- ◇回答数 総合体育館及び地区体育館 1,980
武道館 165

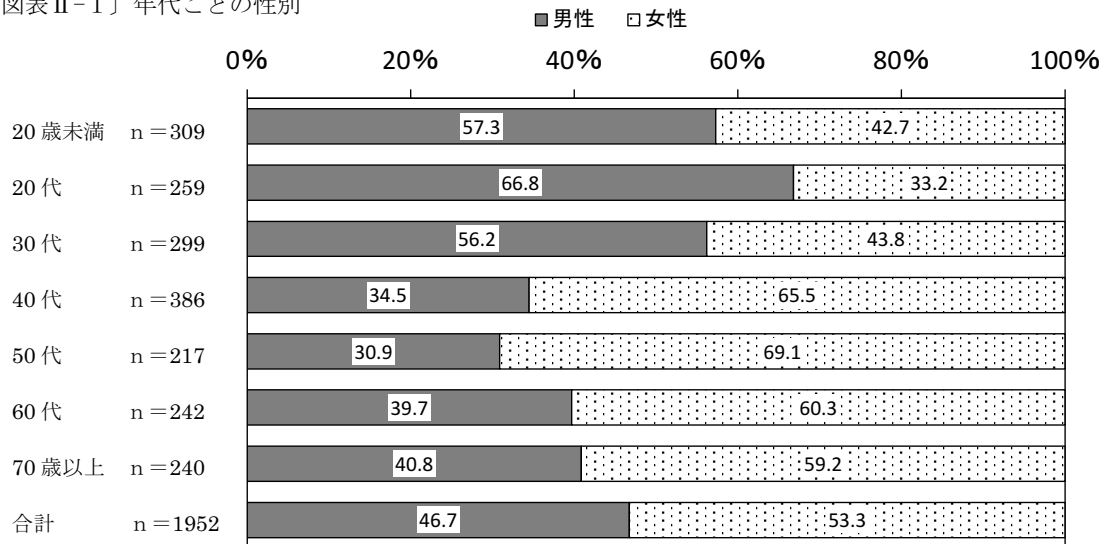
（※屋内プール・アイスアリーナについては、今後スケート利用者を含めた分析を行う予定です）

1 総合体育館及び地区体育館

■年代ごとの性別

利用者の年代別・性別の状況をみると40代以上は女性、それ以下では男性の割合が高くなっています。特に40代、50代では男性の割合が低くなっています。〔図表Ⅱ-1〕

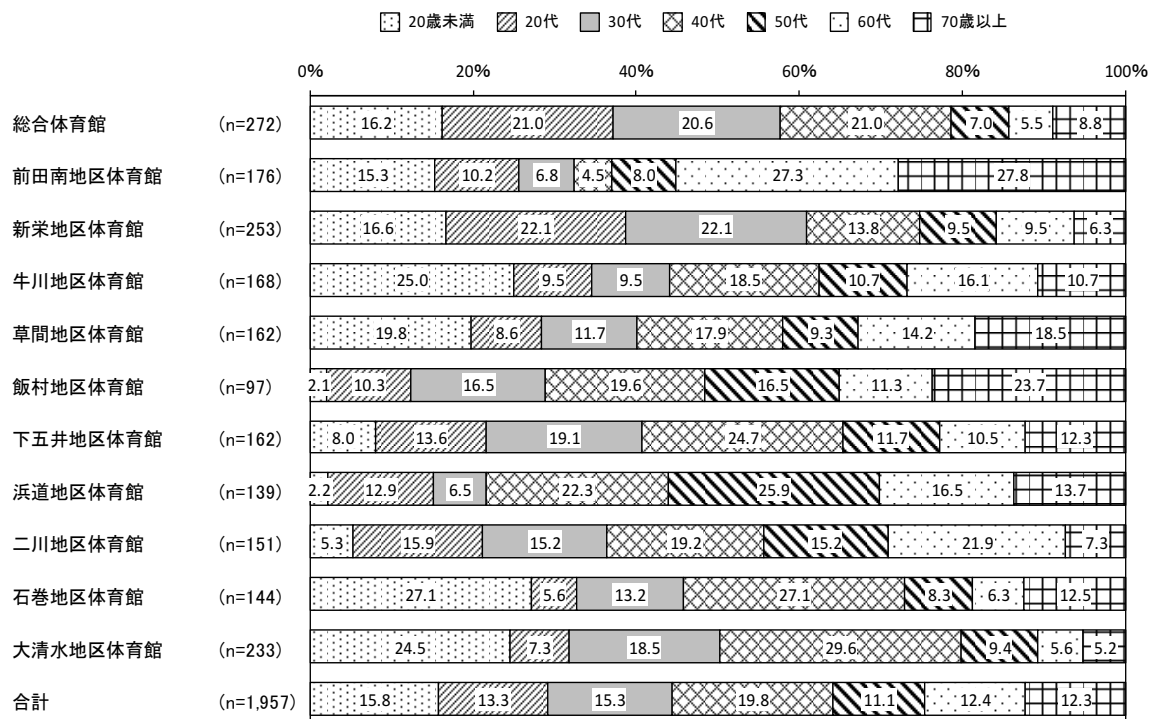
〔図表Ⅱ-1〕年代ごとの性別



■利用者の年代

- 施設ごとの利用者をみると、総合体育館は各年代で利用されている施設となっています。20代以下の割合が高い施設は「新栄地区体育館」「牛川地区体育館」「石巻地区体育館」「大清水地区体育館」であり、逆に「前田南地区体育館」「飯村地区体育館」「草間地区体育館」「浜道地区体育館」などでは60代以上の利用が比較的多い施設になっています。〔図表Ⅱ-2〕
- 総合体育館を除くと、若年層の利用が多い施設と高齢層の利用が多い施設に分かれています。こうした背景には、総合型地域スポーツクラブの拠点となっていることや、駐車場の広さなど利便性の問題も関係していると思われます。〔図表Ⅱ-2〕

〔図表Ⅱ-2〕施設ごとの利用者の年代

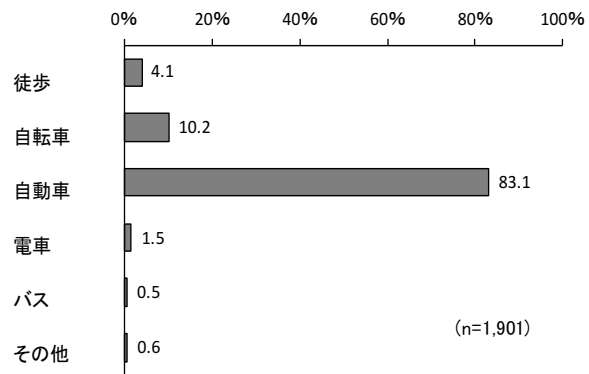


■施設への来館手段

- 施設への来館手段では自動車が約83%、自転車が約10%となっており、公共交通機関を利用している人は非常に少ない調査結果となりました。〔図表Ⅱ-3〕
- 来館手段として自動車以外の割合が高い施設として、前田南地区体育館（自転車約31%）、牛川地区体育館（自転車約19%）、草間地区体育館（徒歩約16%、自転車約12%）があげられます。これらの施設に共通していることは、地区体育館の中で駐車場の台数が少ないことであり、こうした物理的な理由から自転車の利用が高まっていると思われます。〔図表Ⅱ-4、Ⅱ-5〕

〔図表Ⅱ-3〕 来館手段

	項目	回答数	割合(%)
1	徒歩	78	4.1
2	自転車	193	10.2
3	自動車	1,580	83.1
4	電車	29	1.5
5	バス	10	0.5
6	その他	11	0.6
	合計(有効回答数)	1,901	-
	無回答	83	-



〔図表Ⅱ-4〕 施設ごとの来館手段 (回答数)

	項目	総合 体育館	前田南地 区体育館	新栄地区 体育館	牛川地区 体育館	草間地区 体育館	飯村地区 体育館	下五井地 区体育館	浜道地区 体育館	二川地区 体育館	石巻地区 体育館	大清水地 区体育館	合計
1	徒歩	-	8	14	5	25	2	1	5	-	3	15	78
2	自転車	6	51	24	31	19	8	7	9	9	13	16	193
3	自動車	256	105	208	124	108	83	140	122	132	122	180	1,580
4	電車	5	2	-	-	2	-	7	-	-	1	12	29
5	バス	5	-	1	-	-	-	2	-	-	2	-	10
6	その他	-	1	-	2	1	1	-	1	3	1	1	11
	合計(有効回答数)	272	167	247	162	155	94	157	137	144	142	224	1,901

〔図表Ⅱ-5〕 施設ごとの来館手段 (割合)

(単位: %)

	項目	総合 体育館	前田南地 区体育館	新栄地区 体育館	牛川地区 体育館	草間地区 体育館	飯村地区 体育館	下五井地 区体育館	浜道地区 体育館	二川地区 体育館	石巻地区 体育館	大清水地 区体育館	合計
1	徒歩	-	4.8	5.7	3.1	16.1	2.1	0.6	3.6	-	2.1	6.7	4.1
2	自転車	2.2	30.5	9.7	19.1	12.3	8.5	4.5	6.6	6.3	9.2	7.1	10.2
3	自動車	94.1	62.9	84.2	76.5	69.7	88.3	89.2	89.1	91.7	85.9	80.4	83.1
4	電車	1.8	1.2	-	-	1.3	-	4.5	-	-	0.7	5.4	1.5
5	バス	1.8	-	0.4	-	-	-	1.3	-	-	1.4	-	0.5
6	その他	-	0.6	-	1.2	0.6	1.1	-	0.7	2.1	0.7	0.4	0.6
	合計(有効回答数)	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-	-

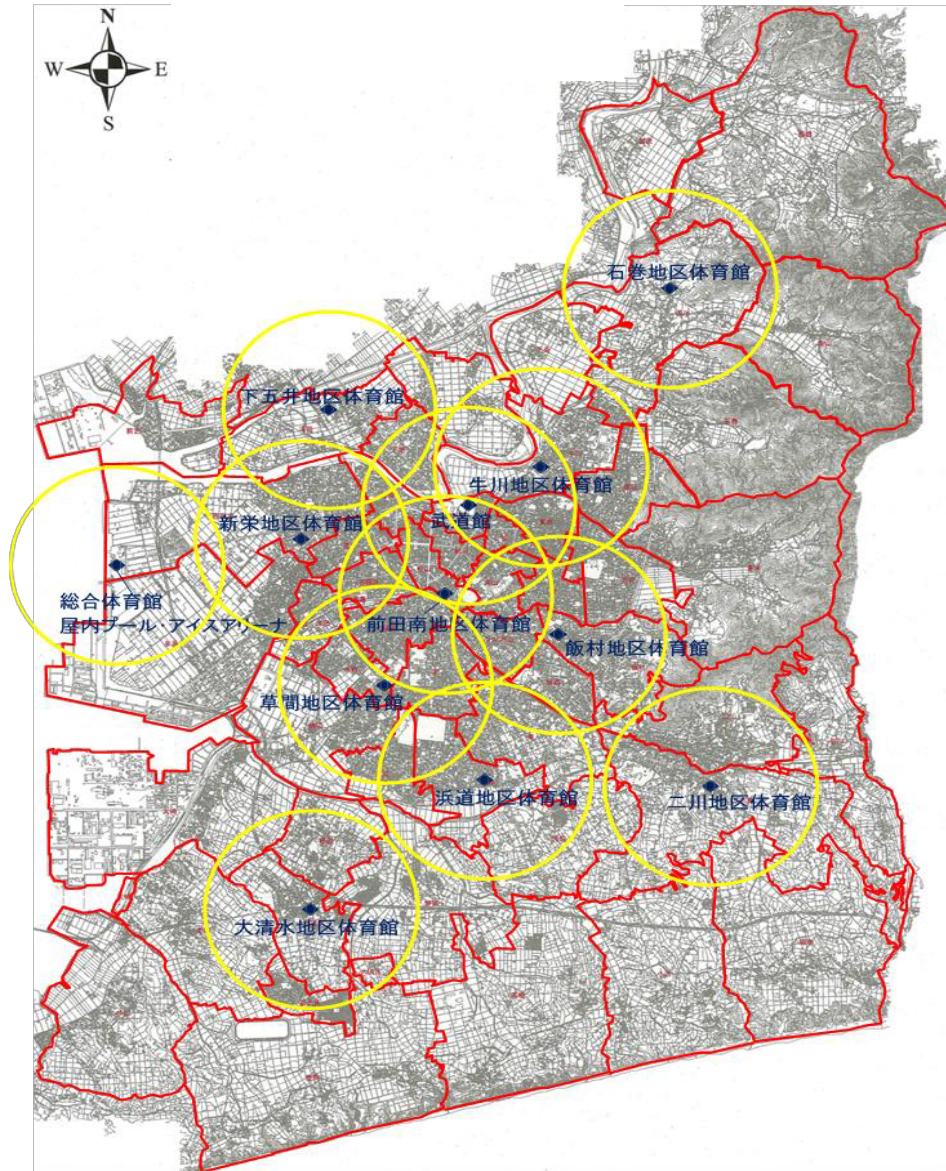
■施設の広域性及び拠点性

居住地と利用している施設には関連性があると思われるため、広域性及び拠点性の分析を行う際、施設所在地を中心として2km圏域(徒歩・自転車利用圏域)を目安として、施設と小学校区(以下「校区」と)の地理的関係を把握できるよう、施設と校区との地理的関係図を作成し、以下の5区分に分類し施設の利用実態を把握することにしました。

(区分の考え方)

- ・施設がある校区
- ・施設から2km圏域に含まれる地域が約半分以上の校区
- ・その他の校区(2km圏内に含まれない校区)
- ・近隣市(豊川市、蒲郡市、新城市、田原市)
- ・その他の市町村

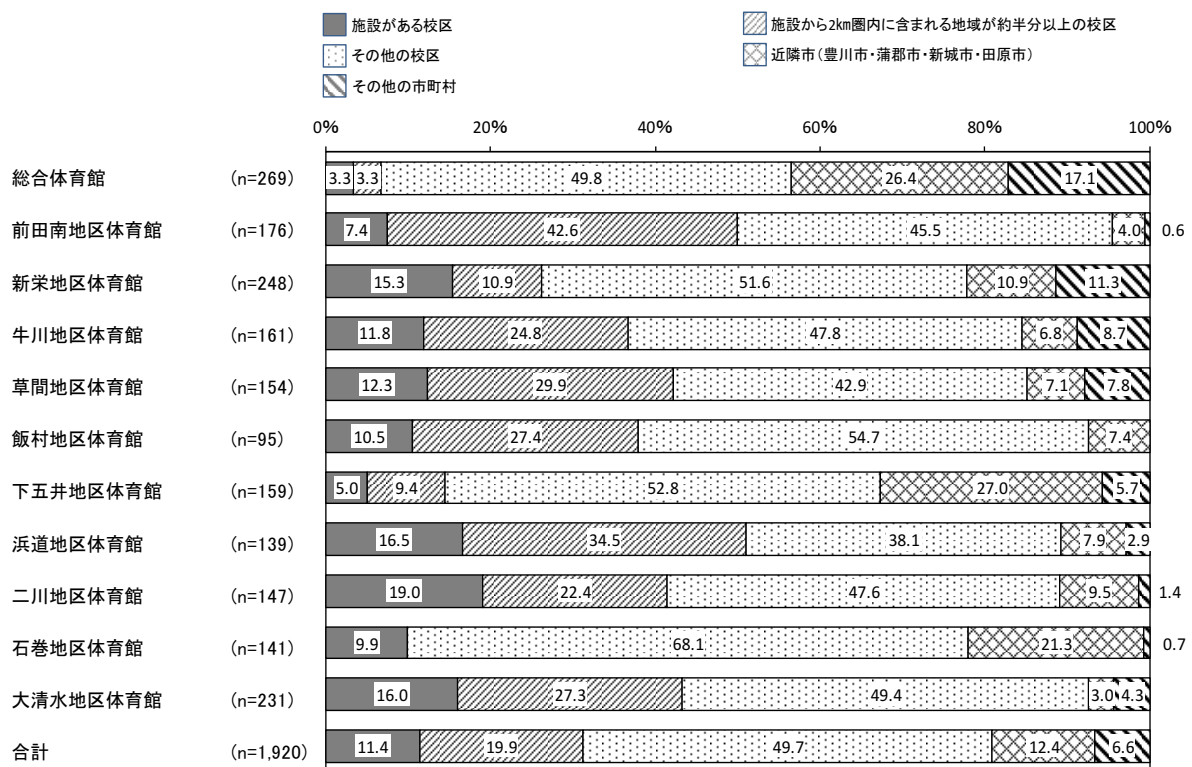
〔図表Ⅱ-6〕 施設から2km圏内に含まれる地域図



No.	施設名	当該体育館等がある 校区名	施設から2km圏内に含まれる地域が約半分以上の校区名																	
			牟呂	豊	旭	八町	新川	向山	羽根井	福岡	栄	つつしが丘								
1	総合体育館	吉田方																		
2	前田南地区体育館	松山																		
3	新栄地区体育館	吉田方																		
4	牛川地区体育館	牛川																		
5	草間地区体育館	中野																		
6	飯村地区体育館	飯村																		
7	下五井地区体育館	津田																		
8	浜道地区体育館	高師																		
9	二川地区体育館	二川南																		
10	石巻地区体育館	玉川																		
11	大清水地区体育館	大清水																		
12	武道館	八町																		

- ・利用者の居住地をみると、総合体育館では「その他の校区（約50%）」が最も高く、次いで「近隣市（豊川市・蒲郡市・新城市・田原市）（約26%）」、「その他の市町村（約17%）」となっており、市内全域もしくは市外からの利用が多くなっています。〔図表Ⅱ-7〕
- ・前田南地区体育館、浜道地区体育館、大清水地区体育館、草間地区体育館、二川地区体育館は、特に施設付近の住民（2km圏内）の利用が多くなっています。〔図表Ⅱ-7〕
- ・新栄地区体育館、下五井地区体育館、石巻地区体育館は、豊橋市民の利用が多いものの、市外の利用者も比較的が多くなっています。これは、これらの施設が市境に近い場所にあることが影響していると思われます。〔図表Ⅱ-7〕

〔図表Ⅱ-7〕施設ごとの利用者居住地

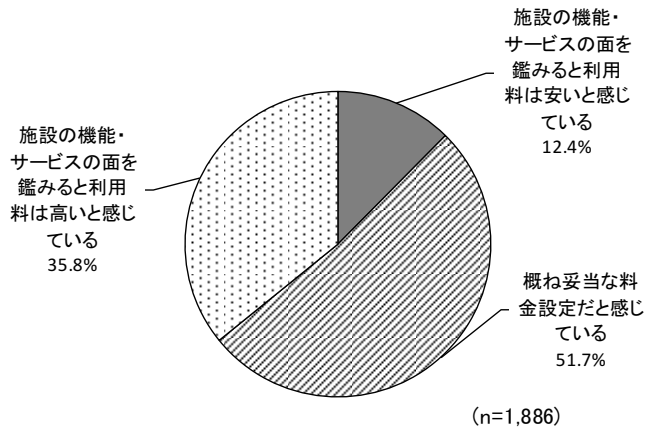


■利用料金の妥当性

- ・総合体育館では安く感じている人、高く感じている人がほぼ同数いますが、全体の60%を超える人が概ね妥当な料金設定と感じています。〔図表Ⅱ-8、Ⅱ-9〕
- ・前田南地区体育館、二川地区体育館、大清水地区体育館では、概ね妥当な料金設定と感じている人が50%を超えています。〔図表Ⅱ-9、Ⅱ-10〕
- ・全体として概ね妥当な料金設定だと感じている人が多い結果でしたが、地区体育館によっては利用料金が高いと感じている人も多くみられました。〔図表Ⅱ-9、Ⅱ-10〕

〔図表Ⅱ-8〕利用料金に対する意識

	項目	回答数	割合(%)
1	施設の機能・サービスの面を鑑みると利用料は安いと感じている	234	12.4
2	概ね妥当な料金設定だと感じている	976	51.7
3	施設の機能・サービスの面を鑑みると利用料は高いと感じている	676	35.8
	合計(有効回答数)	1,886	-
	無回答	94	-



〔図表Ⅱ-9〕施設ごとの利用料金に対する意識 (回答数)

	項目	総合体育館	前田南地区体育館	新栄地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1	施設の機能・サービスの面を鑑みると利用料は安いと感じている	48	5	29	17	24	13	10	17	17	25	29	234
2	概ね妥当な料金設定だと感じている	157	141	109	73	65	36	61	62	88	58	126	976
3	施設の機能・サービスの面を鑑みると利用料は高いと感じている	42	25	100	73	71	44	90	61	45	53	72	676
	合計(有効回答数)	247	171	238	163	160	93	161	140	150	136	227	1,886

〔図表Ⅱ-10〕施設ごとの利用料金に対する意識 (割合)

(単位：%)

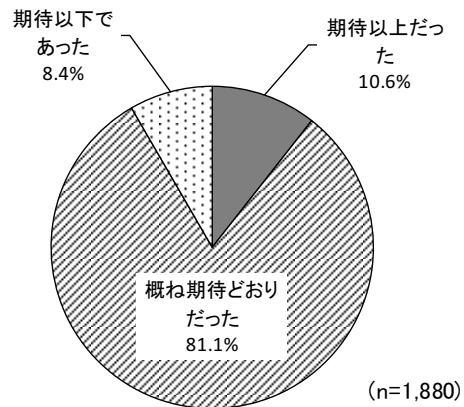
	項目	総合体育館	前田南地区体育館	新栄地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1	施設の機能・サービスの面を鑑みると利用料は安いと感じている	19.4	2.9	12.2	10.4	15.0	14.0	6.2	12.1	11.3	18.4	12.8	12.4
2	概ね妥当な料金設定だと感じている	63.6	82.5	45.8	44.8	40.6	38.7	37.9	44.3	58.7	42.6	55.5	51.7
3	施設の機能・サービスの面を鑑みると利用料は高いと感じている	17.0	14.6	42.0	44.8	44.4	47.3	55.9	43.6	30.0	39.0	31.7	35.8

■サービス面での印象

- ・施設を利用してのサービスについては「期待以上だった（約 11%）」「概ね期待どおりだった（約 81%）」であり、9割以上が一定の満足感を得ています。〔図表Ⅱ-11〕
- ・施設ごとにみると「期待以下であった」の割合が高い施設は「飯村地区体育館（約 23%）」が最も高く、「新栄地区体育館（約 13%）」「前田南地区体育館（約 13%）」「下五井地区体育館（約 11%）」の順でしたが、飯村地区体育館を除きその割合は2割以下であるため、ほとんどの施設は一定のサービス水準を満たしているものと思われます。〔図表Ⅱ-12、Ⅱ-13〕
- ・年代別にみると、20歳未満、20代は期待以上の満足度を得られている割合が2割程度を占めています。一方、「期待以下であった」は年齢が上がるにつれて割合が増えています。〔図表Ⅱ-14、Ⅱ-15〕

〔図表Ⅱ-11〕 サービス面での印象

	項目	回答数	割合(%)
1	期待以上だった	199	10.6
2	概ね期待どおりだった	1,524	81.1
3	期待以下であった	157	8.4
	合計(有効回答数)	1,880	-
	無回答	100	-



〔図表Ⅱ-12〕 施設ごとのサービス面での印象（回答数）

	項目	総合体育館	前田南地区体育館	新栄地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1	期待以上だった	30	8	18	21	32	8	9	7	17	28	21	199
2	概ね期待どおりだった	211	143	192	130	119	66	133	120	120	98	192	1,524
3	期待以下であった	9	22	32	9	8	22	18	7	7	8	15	157
	合計(有効回答数)	250	173	242	160	159	96	160	134	144	134	228	1,880

〔図表Ⅱ-13〕 施設ごとのサービス面での印象（割合）

（単位：％）

	項目	総合体育館	前田南地区体育館	新栄地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1	期待以上だった	12.0	4.6	7.4	13.1	20.1	8.3	5.6	5.2	11.8	20.9	9.2	10.6
2	概ね期待どおりだった	84.4	82.7	79.3	81.3	74.8	68.8	83.1	89.6	83.3	73.1	84.2	81.1
3	期待以下であった	3.6	12.7	13.2	5.6	5.0	22.9	11.3	5.2	4.9	6.0	6.6	8.4

〔図表Ⅱ-14〕年代ごとのサービス面での印象（回答数）

	項目	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
1	期待以上だった	75	45	20	29	13	7	10	199
2	概ね期待どおりだった	210	201	248	324	176	188	172	1,519
3	期待以下であった	14	9	21	24	21	33	35	157
	合計(有効回答数)	299	255	289	377	210	228	217	1,875

〔図表Ⅱ-15〕年代ごとのサービス面での印象（割合）

（単位：％）

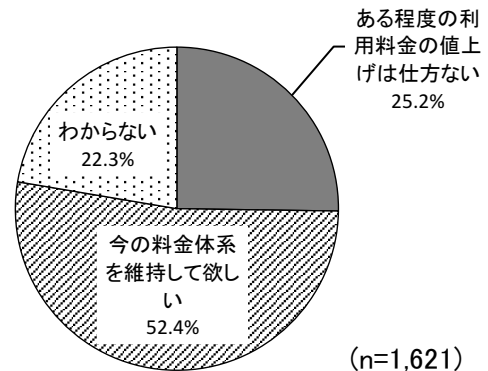
	項目	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
1	期待以上だった	25.1	17.6	6.9	7.7	6.2	3.1	4.6	10.6
2	概ね期待どおりだった	70.2	78.8	85.8	85.9	83.8	82.5	79.3	81.0
3	期待以下であった	4.7	3.5	7.3	6.4	10.0	14.5	16.1	8.4

■今後の利用料金

- ・今後の利用料金については、「今の利用料金を維持して欲しい」が約52%で、過半数を占めています。〔図表Ⅱ-16〕
- ・施設別にみると「ある程度の利用料金の値上げは仕方ない」の割合が高い施設は「総合体育館（約32%）」「石巻地区体育館（約32%）」「前田南地区体育館（約30%）」となっていますが、すべての施設で「今の料金体系を維持して欲しい」が最も高い結果となりました。〔図表Ⅱ-17、Ⅱ-18〕
- ・年代別にみると「ある程度の利用料金の値上げは仕方ない」の割合が高い年代は、50代（約29%）、40代（約28%）、60代（約27%）であり、70歳以上（約21%）、20歳未満（約22%）が低くなっています。〔図表Ⅱ-19、Ⅱ-20〕
- ・「今の料金体系を維持して欲しい」と回答した方の主な理由は「高いと利用しにくくなる」「子ども、主婦、年金受給者だから」でした。

〔図表Ⅱ-16〕今後の利用料金に対する考え方

	項目	回答数	割合(%)
1	ある程度の利用料金の値上げは仕方ない	409	25.2
2	今の料金体系を維持して欲しい	850	52.4
3	わからない	362	22.3
	合計(有効回答数)	1,621	-
	無回答	359	-



〔図表Ⅱ-17〕施設ごとの今後の利用料金に対する考え方（回答数）

	項目	総合体育館	前田南地区体育館	新栄地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1	ある程度の利用料金の値上げは仕方ない	65	51	47	41	29	19	16	21	31	38	51	409
2	今の料金体系を維持して欲しい	92	90	104	67	62	44	70	73	75	53	120	850
3	わからない	45	30	47	32	26	15	53	23	14	27	50	362
	合計(有効回答数)	202	171	198	140	117	78	139	117	120	118	221	1,621

〔図表Ⅱ-18〕施設ごとの今後の利用料金に対する考え方（割合）（単位：％）

項目	総合体育館	前田南地区体育館	新栄地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1 ある程度の利用料金の値上げは仕方ない	32.2	29.8	23.7	29.3	24.8	24.4	11.5	17.9	25.8	32.2	23.1	25.2
2 今の料金体系を維持して欲しい	45.5	52.6	52.5	47.9	53.0	56.4	50.4	62.4	62.5	44.9	54.3	52.4
3 わからない	22.3	17.5	23.7	22.9	22.2	19.2	38.1	19.7	11.7	22.9	22.6	22.3

〔図表Ⅱ-19〕年代ごとの今後の利用料金に対する考え方（回答数）

項目	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
1 ある程度の利用料金の値上げは仕方ない	56	53	58	91	53	57	40	408
2 今の料金体系を維持して欲しい	102	101	128	167	102	118	129	847
3 わからない	96	51	50	72	30	38	23	360
合計(有効回答数)	254	205	236	330	185	213	192	1,615

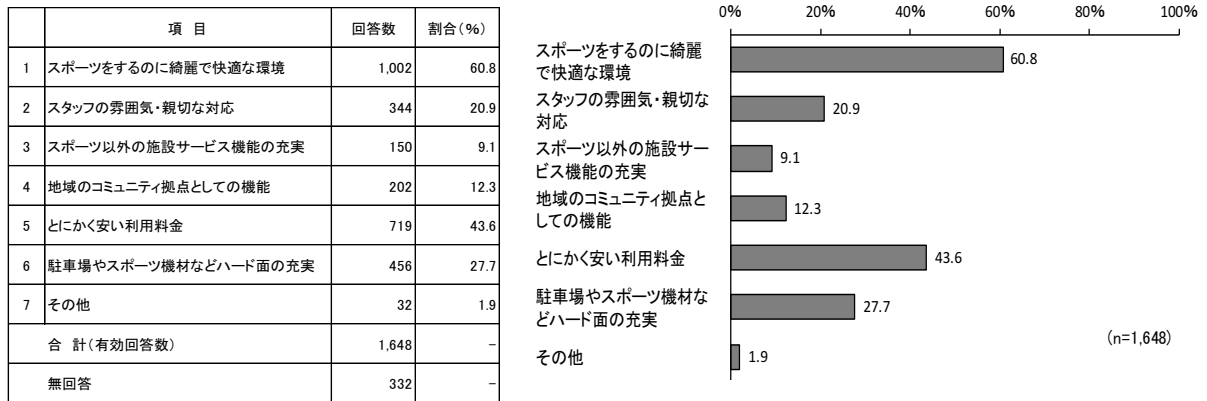
〔図表Ⅱ-20〕年代ごとの今後の利用料金に対する考え方（割合）（単位：％）

項目	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
1 ある程度の利用料金の値上げは仕方ない	22.0	25.9	24.6	27.6	28.6	26.8	20.8	25.3
2 今の料金体系を維持して欲しい	40.2	49.3	54.2	50.6	55.1	55.4	67.2	52.4
3 わからない	37.8	24.9	21.2	21.8	16.2	17.8	12.0	22.3

■今後の屋内スポーツ施設に期待すること

- ・今後の屋内スポーツ施設に期待することでは「スポーツをするのに綺麗で快適な環境（約61%）」が最も多く、次いで「とにかく安い利用料金（約44%）」が多くなっています。〔図表Ⅱ-21〕
- ・施設別にみると、総合体育館では「スポーツをするのに綺麗で快適な環境（約77%）」が最も高くなっており、逆に「とにかく安い料金（約25%）」は全施設の中で最も低くなっています。これは、総合体育館のような様々なスポーツを行うことができる広域性・拠点性が高い施設では、利用料金よりも充実した良質のスポーツ環境が重要視されている結果であると考えられます。〔図表Ⅱ-22〕
- ・年代別にみると「スポーツをするのに綺麗で快適な環境」を強く望んでいる年代は、30代（約70%）、20歳未満（約68%）が高くなっています。「とにかく安い利用料金」を望んでいる年代は、20歳未満や60代が約47%、20代においても約45%となっていますが、すべての年代で過半数を超えませんでした。20歳未満は快適なスポーツ環境を望みながら、しかも安価な利用料金を期待しており、60代等は快適なスポーツ環境よりは利用料金の安さを期待しているなど、年代によってスポーツ施設に対する設備や料金等について異なった意識があります。〔図表Ⅱ-23〕
- ・「スポーツをするのに綺麗で快適な環境」と回答した方の主な理由は「綺麗だと気持ちがいい、やる気が出る」「整備されていない環境ではケガが発生する」「子どもが利用するのに快適な環境は必要」など、選手のやる気や安全配慮、子どものスポーツ環境確保を求める意見でした。また、個別の意見で「予約方法が複雑で使いづらい」「きめ細やかな利用時間単位へ変更して欲しい（2時間単位等）」「施設利用時間を延長して欲しい」など、予約方法の改善や気軽に施設を利用できる環境を求める声もみられました。

〔図表Ⅱ-21〕 今後の屋内スポーツ施設に期待すること（1人2つまで回答）



〔図表Ⅱ-22〕 施設ごとの今後の屋内スポーツ施設に期待すること（割合）（単位：％）

項目	総合体育館	前田南地区体育館	新栄地区体育館	牛川地区体育館	草間地区体育館	飯村地区体育館	下五井地区体育館	浜道地区体育館	二川地区体育館	石巻地区体育館	大清水地区体育館	合計
1 スポーツをするのに綺麗で快適な環境	76.6	26.9	58.7	59.3	55.3	65.8	55.9	67.5	50.0	65.5	79.7	60.8
2 スタッフの雰囲気・親切な対応	21.5	14.0	17.9	24.8	24.4	19.7	21.4	27.4	25.0	21.0	18.0	20.9
3 スポーツ以外の施設サービス機能の充実	16.6	5.3	8.0	7.6	4.9	3.9	5.5	7.7	8.9	10.9	13.5	9.1
4 地域のコミュニティ拠点としての機能	10.7	14.0	10.4	13.1	10.6	7.9	15.2	12.8	13.7	14.3	11.7	12.3
5 とにかく安い利用料金	25.4	47.4	52.2	41.4	53.7	39.5	57.2	36.8	58.9	36.1	37.4	43.6
6 駐車場やスポーツ機材などハード面の充実	22.4	52.6	21.4	24.1	23.6	38.2	22.1	29.1	21.0	24.4	28.4	27.7
7 その他	2.4	2.9	1.0	-	0.8	1.3	1.4	0.9	-	7.6	2.7	1.9

〔図表Ⅱ-23〕 年代ごとの今後の屋内スポーツ施設に期待すること（割合）（単位：％）

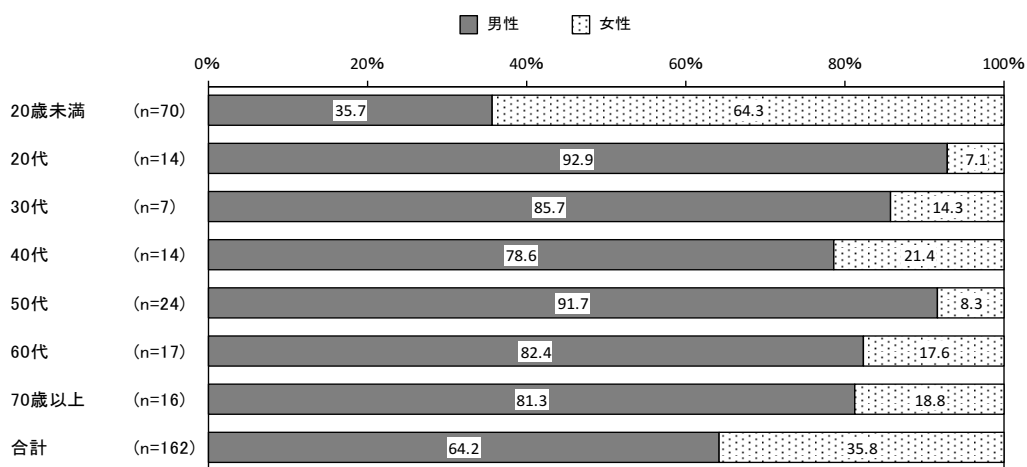
項目	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
1 スポーツをするのに綺麗で快適な環境	68.4	63.5	70.4	65.9	61.4	38.4	51.3	60.8
2 スタッフの雰囲気・親切な対応	23.4	21.2	16.5	14.8	22.2	21.8	29.6	20.8
3 スポーツ以外の施設サービス機能の充実	15.2	7.2	11.1	12.1	5.3	5.1	4.0	9.1
4 地域のコミュニティ拠点としての機能	8.6	8.2	7.4	13.0	15.9	17.6	17.1	12.3
5 とにかく安い利用料金	46.9	45.2	44.0	39.3	42.9	46.8	41.7	43.6
6 駐車場やスポーツ機材などハード面の充実	9.8	22.1	24.7	33.8	37.6	38.4	29.6	27.7
7 その他	3.1	2.4	0.4	2.7	1.6	1.9	1.0	1.9

2 武道館

■年代ごとの性別

- ・利用者の年代別の状況をみると利用者全体の約4割は20歳未満の若年層となっています。〔図表Ⅱ-24〕
- ・利用者の性別をみると、20歳未満では女性、その他の年代ではすべて男性の割合が高くなっています。高校生等に代表される20歳未満の年代では、女性でも部活動の練習で武道館を利用していると考えられます。〔図表Ⅱ-24〕

〔図表Ⅱ-24〕年代ごとの性別

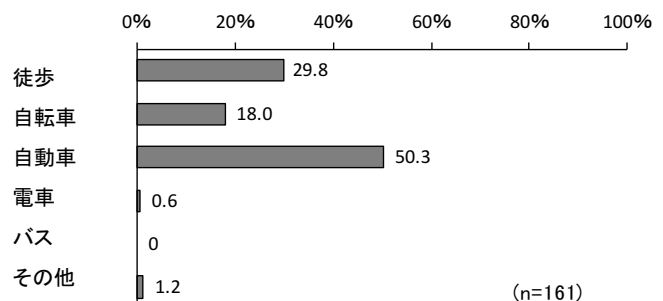


■武道館への来館手段

体育館と比べ、徒歩・自転車の割合が高くなっていることが特徴です。これは、利用者には高校生などの20歳未満が多いことが理由として考えられます。〔図表Ⅱ-25〕

〔図表Ⅱ-25〕武道館への来館手段

項目	回答数	割合 (%)
1 徒歩	48	29.8
2 自転車	29	18.0
3 自動車	81	50.3
4 電車	1	0.6
5 バス	-	-
6 その他	2	1.2
合計(有効回答数)	161	-
無回答	4	-

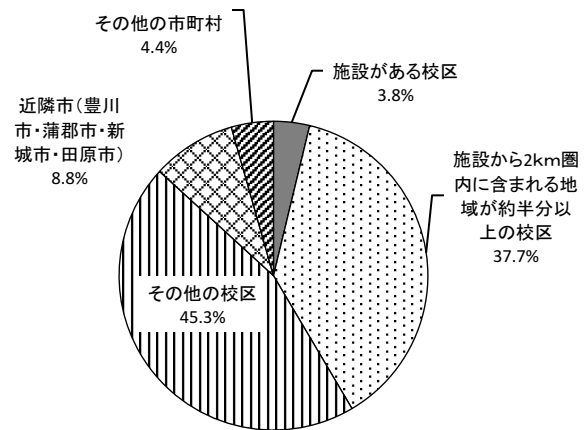


■ 武道館の広域性及び拠点性

・居住地と施設との関連性を分析するため、体育館と同様の区分で調査した結果、「施設がある校区」が約4%、「施設から2km圏内に含まれる地域が約半分以上の校区」が約38%、「その他の校区」が約45%、「近隣市（豊川市・蒲郡市・新城市・田原市）」が約9%となり、総合体育館ほどではないですが、一定の広域性と拠点性がみられました。これは、武道館が市内において唯一の武道専用の社会体育施設であることが影響していると思われます。〔図表Ⅱ-26〕（※施設から2km圏内に含まれる地域図は20頁を参照）

〔図表Ⅱ-26〕 武道館の利用者居住地

	項目	回答数	割合(%)
1	施設がある校区	6	3.8
2	施設から2km圏内に含まれる地域が約半分以上の校区	60	37.7
3	その他の校区	72	45.3
4	近隣市(豊川市・蒲郡市・新城市・田原市)	14	8.8
5	その他の市町村	7	4.4
合計(有効回答数)		159	-
無回答		6	-



(n=159)

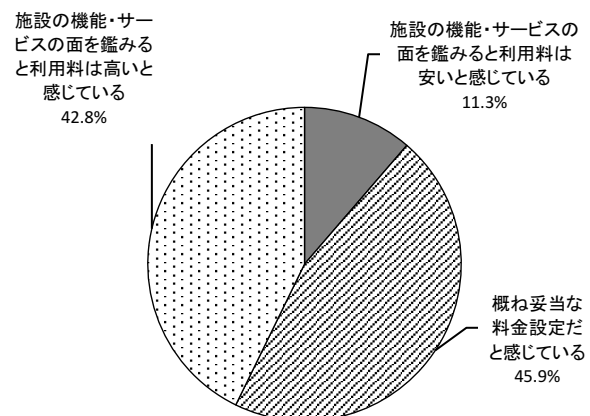
■ 利用料金の妥当性

・全体で約43%の方が割高感を感じています。これは体育館と比較しても高い割合です。

〔図表Ⅱ-27〕

〔図表Ⅱ-27〕 利用料金に対する意識

	項目	回答数	割合(%)
1	施設の機能・サービスの面を鑑みると利用料は安いと感じている	18	11.3
2	概ね妥当な料金設定だと感じている	73	45.9
3	施設の機能・サービスの面を鑑みると利用料は高いと感じている	68	42.8
合計(有効回答数)		159	-
無回答		6	-



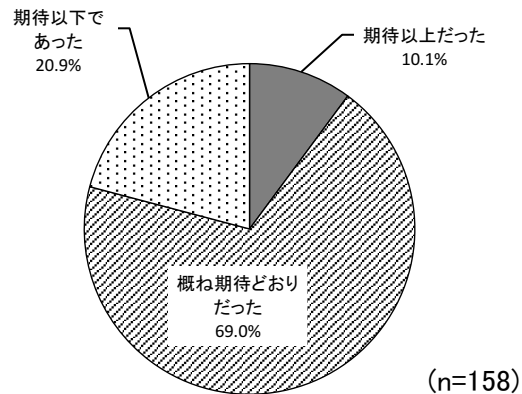
(n=159)

■サービス面での印象

- ・施設を利用してのサービスについては「期待以上だった（約 10%）」「概ね期待どおりだった（約 69%）」であり、約 8 割が一定の満足感を得ています。〔図表 II-28〕
- ・一方、「期待以下であった（約 21%）」と回答した方の主な理由は「床や天井のひび割れなど施設の老朽化を解消して欲しい」「器具を新しくして欲しい」「値上げしたのにも関わらずメンテナンスが行き届いていない」などでした。

〔図表 II-28〕 サービス面での印象

	項目	回答数	割合(%)
1	期待以上だった	16	10.1
2	概ね期待どおりだった	109	69.0
3	期待以下であった	33	20.9
	合計(有効回答数)	158	-
	無回答	7	-

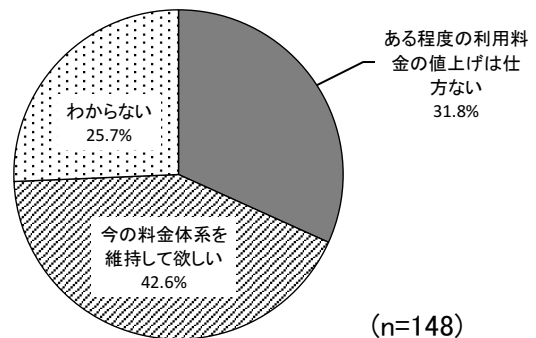


■今後の利用料金

- ・今後の利用料金については、「ある程度の利用料金の値上げは仕方ない（約 32%）」「今の料金体系を維持して欲しい（約 43%）」で、今の料金体系を維持して欲しいとする意見が多い結果となっていますが、体育館と比較すると値上げに賛同する意見が多く、体育館よりも武道館の方が、多少の値上げがあっても綺麗で快適な環境でスポーツをしたい意向がより強く出ています。〔図表 II-29〕
- ・年代別にみると、若い年代で「ある程度の利用料金の値上げは仕方ない」という意見が多く、高齢層では「今の料金体系を維持して欲しい」との意向が強い傾向が伺えます。また「わからない」と回答した大半は若年層でした。〔図表 II-30〕
- ・「今の料金体系を維持して欲しい」と回答した方の主な理由は「高いと利用しにくくなる」「子ども、主婦、年金受給者だから」などで、体育館の調査と概ね同じ理由でした。

〔図表 II-29〕 今後の利用料金に対する考え方

	項目	回答数	割合(%)
1	ある程度の利用料金の値上げは仕方ない	47	31.8
2	今の料金体系を維持して欲しい	63	42.6
3	わからない	38	25.7
	合計(有効回答数)	148	-
	無回答	17	-



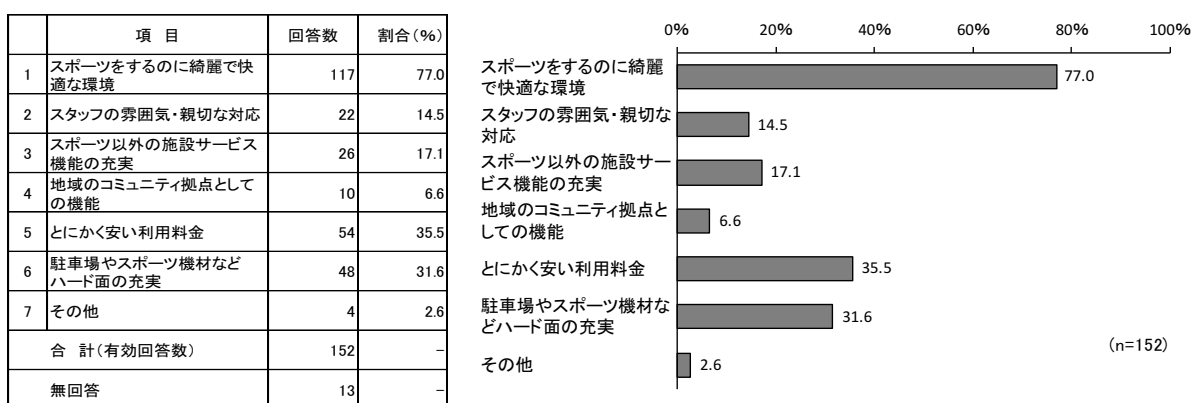
〔図表Ⅱ-30〕年代ごとの今後の利用料金に対する考え方（回答数）

項目	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
1 ある程度の利用料金の値上げは仕方ない	21	2	5	2	10	3	4	47
2 今の料金体系を維持して欲しい	13	7	1	10	12	11	9	63
3 わからない	34	1	-	1	-	-	2	38
合計(有効回答数)	68	10	6	13	22	14	15	148

■今後の屋内スポーツ施設に期待すること

- ・今後の屋内スポーツ施設に期待することでは「スポーツをするのに綺麗で快適な環境（約77%）」が最も高い割合となっており、体育館での同じ回答（約61%）より16ポイント高くなっています。次いで「とにかく安い利用料金（約36%）」となっており、体育館（約44%）より8ポイント低い結果となりました。この結果から、武道館の利用者の方が体育館の利用者よりも、施設の充実への期待が一層強いことが伺えます。〔図表Ⅱ-31〕
- ・「スポーツをするのに綺麗で快適な環境」と回答した方の主な理由は、体育館と概ね同様で「綺麗だと気持ちがいい、やる気が出る」でした。

〔図表Ⅱ-31〕今後の屋内スポーツ施設に期待すること（1人2つまで回答）



〔図表Ⅱ-32〕年代ごとの今後の屋内スポーツ施設に期待すること（割合）（単位：%）

項目	20歳未満	20代	30代	40代	50代	60代	70歳以上	合計
1 スポーツをするのに綺麗で快適な環境	82.6	80.0	100.0	50.0	65.2	86.7	73.3	77.0
2 スタッフの雰囲気・親切な対応	24.6	-	-	14.3	13.0	-	-	14.5
3 スポーツ以外の施設サービス機能の充実	29.0	-	16.7	7.1	4.3	-	20.0	17.1
4 地域のコミュニティ拠点としての機能	2.9	10.0	16.7	14.3	8.7	-	13.3	6.6
5 とにかく安い利用料金	42.0	50.0	-	42.9	30.4	20.0	26.7	35.5
6 駐車場やスポーツ機材などハード面の充実	7.2	40.0	50.0	35.7	56.5	80.0	40.0	31.6
7 その他	4.3	-	16.7	-	-	-	-	2.6

Ⅲ 実態調査・利用者アンケートのまとめ

ここまでの実態調査、利用者アンケートから以下のとおり分析結果をまとめました。

○総合体育館・武道館の利用者数は増加傾向にあります

総合体育館では三遠ネオフェニックスのホームゲームが増加したこともあり、ここ数年利用者数が増加傾向にあります。また、武道館においても、柔道場・剣道場・弓道場・相撲場・トレーニング室それぞれ利用者数が増加しており、全体としても利用者数は増加傾向にあります。〔図表 I-8～I-11〕

○施設の老朽化が進んでいます

施設の多くは1970年代から1990年代前半に整備されており、竣工から30年を超えるものも多くみられます。竣工当時と今日とでは、時代の変化に伴うスポーツを「する」市民ニーズも変わってきており、利用者アンケートからも屋内スポーツ施設の老朽化解消や施設の質の向上を求める意見が多くみられます。〔図表 I-1、図表 II-21～II-23、図表 II-31～II-32〕

○利用者にはリピーターが多い傾向があります

体育館の利用頻度は週1回が最も多く、全体的にリピーター利用が多い傾向がみられます。また、利用する曜日・時間帯に関しては、卓球・バドミントンといった少人数でも実施可能な種目は平日午前の利用割合が比較的高く、バスケットボール・バレーボール・ソフトバレーボールといった集団で行う種目は平日夜間や休日の利用が多い傾向があります。〔図表 I-16～I-18〕

○きめ細やかな利用時間区分を望む声がみられます

体育館では、現在、午前3時間（9：00～12：00）、午後4時間（13：00～17：00）、夜間4時間（17：00～21：00）の利用時間区分で運用していますが、利用者の実際の活動時間は、2時間以下の利用が3割を超えていること、さらには2時間程度の短時間の利用を求める個別の意見もあるなど、短い時間の利用ニーズがあることが明らかになりました。〔図表 I-22、25 頁本文〕

○地区体育館は広域性の高い施設と考えられます

施設ごとに利用者の居住地に特徴があり、総合体育館や武道館のような広域性・拠点性の高い施設と、地区体育館のように施設から近くに居住する住民の利用が比較的多い施設に分けられます。しかしながら、地区体育館においても、施設から2km圏内に含まれない校区の利用者が多い実態があることや、車での利用が多いことから一定の広域性があると考えられます。また地区体育館の中には下五井地区体育館や石巻地区体育館のように他の市町村の方も多く利用している地区体育館もみられます。〔図表Ⅱ-3～Ⅱ-7〕

○利用者の移動手段は自動車が多く駐車場の確保を求める意見が多くみられます

施設までの移動手段は、ほとんどが「自動車」を利用しており、唯一、武道館だけは比較的「徒歩」「自転車」の割合が高くなっています。これは、当該施設では高校生等の学生利用が多くなっているためと考えられます。また地区体育館の中にも前田南地区体育館など自動車利用の割合が低い施設がありますが、これは駐車場が狭いためと考えられます。〔図表Ⅱ-3～Ⅱ-5、図表Ⅱ-25〕

○今の利用料金に対し利用者の過半数は「割安感」「妥当感」を感じています

施設の利用料金については、「割安感」「妥当感」を感じている利用者の割合が体育館で約6割、武道館で約5割を超えており、今年度に入って料金改定によって価格が上昇したのにも関わらず「割高感」を感じている人の割合は半数以下となっています。〔図表Ⅱ-8、図表Ⅱ-27〕

○今の施設サービスには概ね「期待どおり」と感じる一方、質の充実を求める意見も多くみられます

施設サービスでは、「期待以上」「期待どおり」が大半を占め、多くの人が施設サービスに一定の満足感を得ていることが分かります。しかしながら、「期待以下であった」の中には、利用料金や設備の改善を求める意見が多くみられました。〔図表Ⅱ-11、図表Ⅱ-28〕

○利用料金の値上げは仕方ないと考える方もみられます

今後の利用料金については、「現状の価格の維持」の回答が最も多いものの、「値上げは仕方ない」という意見も体育館で約25%、武道館で約32%みられました。〔図表Ⅱ-16、図表Ⅱ-29〕

○今後は利用料金の安さよりも施設の質の充実が求められます

今後の屋内スポーツ施設に期待することでは、「スポーツをする快適な環境」が最も高く、次いで「とにかく安い料金」であり、安価な料金よりも快適な環境整備を期待する声が多くみられました。こういった傾向は、体育館よりも武道館でより顕著に表れました。〔図表Ⅱ-21～Ⅱ-23、図表Ⅱ-31～Ⅱ-32〕

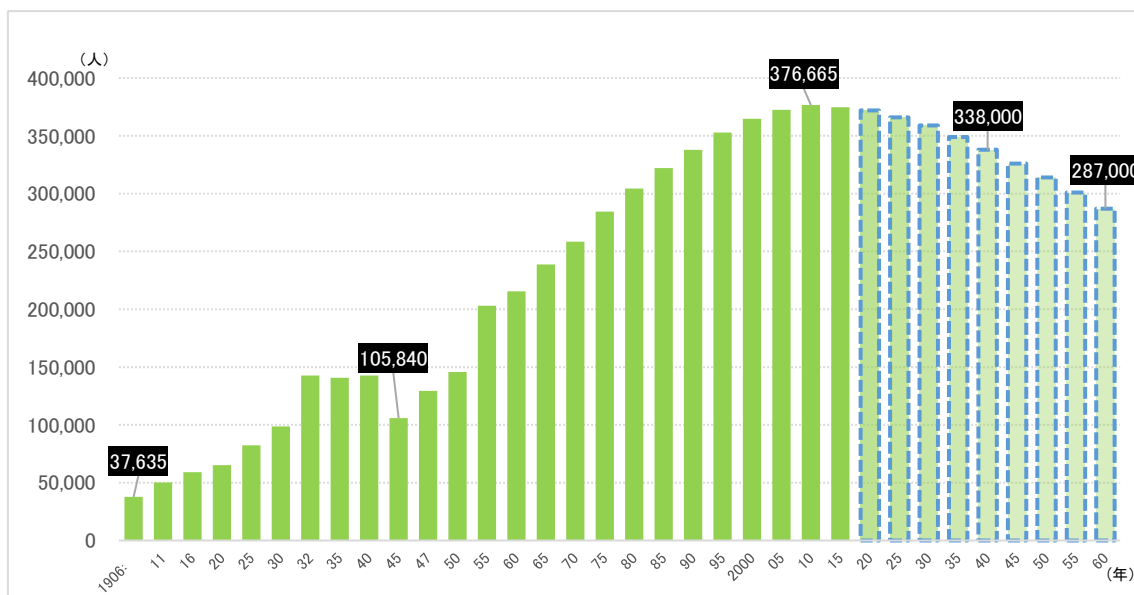
IV 屋内スポーツ施設を取り巻く環境

1 人口推移及び将来予測

(1) 総人口の減少

本市の総人口は、既に2010年ごろをピークに減少局面に入り、今後も減少していくことが見込まれます。豊橋市人口ビジョンでは、本市の合計特殊出生率が現状と同水準で推移していくと仮定した場合、2040年には34万人を下回り、2060年には30万人を割り込む見通しとなっています。〔図表IV-1〕

〔図表IV-1〕 豊橋市将来予測人口推計



(出典：豊橋市統計書及び豊橋市人口ビジョン(低位推移前提))

(2) 校区別の人口予測

市内校区ごとの人口動態の傾向を掴むため以下に示す推計方法に従って計算しました。

■校区別人口推計の推計方法

○推計方法

コーホート要因法による。ここで言うコーホートは、平成 22 年国勢調査の「町丁・字等別、男女別、年齢別（5 歳階級）人口」を指し、これに対する出生、死亡、純移動（転入と転出）という人口変動要因の将来値を仮定し、将来人口を推計した。

○推計期間

平成 22 年から平成 47 年までの 5 年ごとの 25 年間

○基準人口

平成 22 年国勢調査の「町丁・字等別、男女別、年齢別（5 歳階級）人口」

○出生（子ども女性比）

出生は、0 歳から 4 歳までの子ども数に対する 15 歳から 49 歳までの女性の数の比（子ども女性比）をもとに、校区ごとの出生数を推計した。その将来値は国立社会保障・人口問題研究所の「日本の地域別将来推計人口（平成 25 年 3 月推計）」の豊橋市の子ども女性比の推移と同じと仮定し、将来の出生数を推計した。なお、0 歳から 4 歳までの性比は、「愛知県衛生年報」における平成 17 年から 22 年までの豊橋市の男女別出生数の性比を適用した。

○死亡（生存率）

死亡は、「愛知県衛生年報」における平成 17 年から 22 年までの豊橋市の死亡数から生存率を求めた。その将来値は、国立社会保障・人口問題研究所の「日本の都道府県別将来推計人口（平成 19 年 5 月推計）」における愛知県の生存率の推移と同じと仮定し将来の死亡数を推計した。

○人口移動（純移動率）

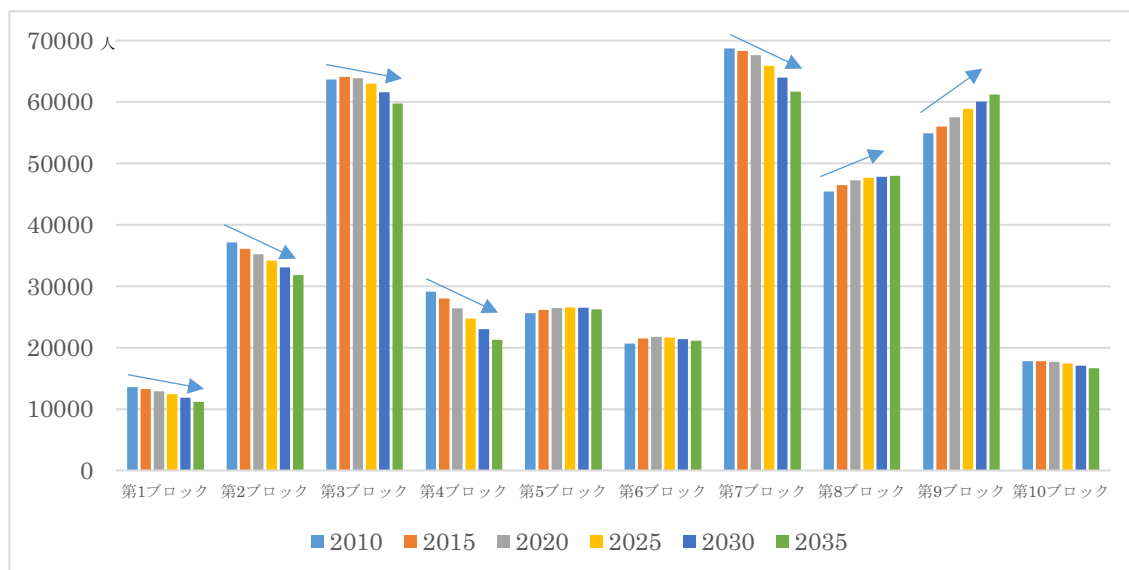
人口移動（転入と転出）については、景気後退により流出傾向が強かった平成 17 年から 22 年までと好況基調で流入傾向が強かった平成 12 年から 17 年までの純移動率の平均値になると仮定し移動数を推計した。なお、大規模住宅開発等の特殊事情により人口の伸び率が異常に高くなった校区については、純移動率に必要な補正を行った。計画段階の大規模住宅開発は考慮していない。

○小学校区の範囲設定

本市の小学校区の範囲は、国勢調査の町丁・字の集まりと必ずしも一致しないため、各町丁・字がどの校区に属するか、面積の多い方に割振りをした。ただし、二川、二川南、飯村、高師校区については、同一の町丁・字での按分も行った。

(出典：豊橋市公共施設等総合管理方針の参考資料)

〔図表IV-2〕ブロック別の人口推計



〔図表Ⅳ-3〕校区別の人口推計

(単位：人)

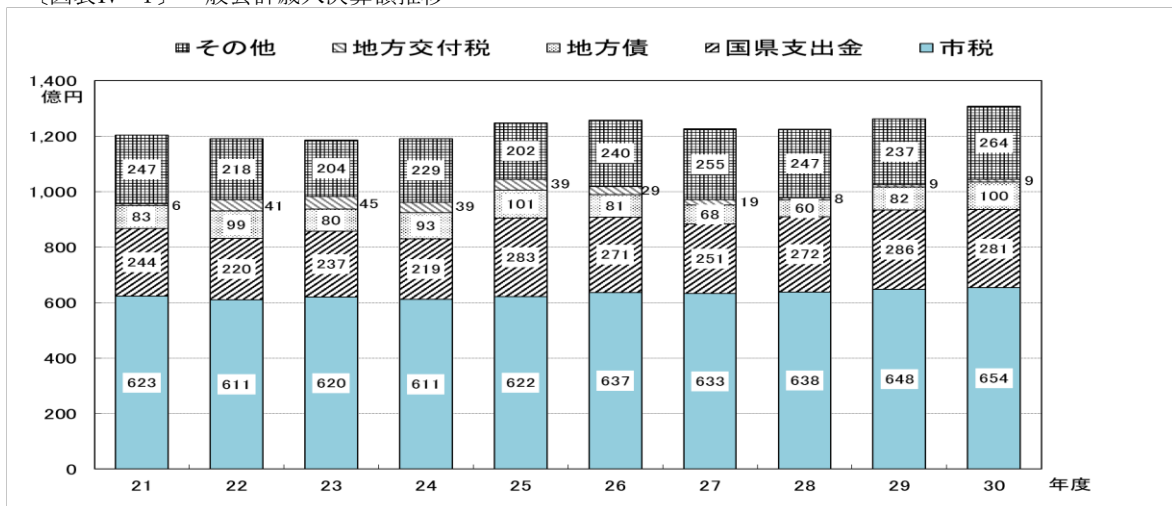
ブロック名	校区名	2010	2015	2020	2025	2030	2035	傾向
第1ブロック	石巻	2,889	2,923	2,916	2,885	2,832	2,771	微減
	西郷	2,444	2,311	2,180	2,052	1,912	1,765	
	玉川	5,274	5,197	5,072	4,899	4,683	4,425	
	嵩山	1,598	1,555	1,499	1,431	1,352	1,258	
	賀茂	1,379	1,301	1,224	1,138	1,059	976	
第2ブロック	東田	9,630	8,940	8,239	7,531	6,848	6,199	減
	旭	3,925	3,724	3,513	3,293	3,079	2,866	
	牛川	9,881	10,020	10,403	10,844	11,212	11,527	
	下条	1,494	1,447	1,390	1,322	1,250	1,168	
	鷹丘	12,201	11,983	11,654	11,197	10,660	10,064	
第3ブロック	岩田	15,107	14,893	14,494	13,917	13,194	12,369	微減
	豊	7,331	7,022	6,644	6,206	5,741	5,263	
	多米	11,600	12,006	12,321	12,520	12,617	12,612	
	岩西	8,749	8,773	8,712	8,545	8,312	8,036	
	つつじが丘	9,833	10,104	10,289	10,356	10,348	10,281	
	飯村	11,040	11,274	11,427	11,445	11,362	11,185	
第4ブロック	八町	3,223	3,053	2,872	2,695	2,514	2,324	減
	松葉	6,679	6,578	6,445	6,259	6,044	5,822	
	松山	6,812	6,768	6,390	6,003	5,593	5,164	
	新川	4,944	4,541	4,144	3,748	3,360	2,976	
	向山	7,471	7,048	6,566	6,041	5,510	5,005	
第5ブロック	二川	7,688	7,857	7,998	8,057	8,055	7,962	増減なし
	二川南	8,827	9,160	9,439	9,651	9,812	9,915	
	谷川	3,493	3,569	3,592	3,553	3,486	3,403	
	小沢	2,709	2,733	2,735	2,734	2,735	2,721	
	細谷	2,906	2,814	2,700	2,558	2,413	2,251	
第6ブロック	富士見	7,941	7,774	7,555	7,265	6,913	6,508	増減なし
	高根	2,180	2,508	2,777	2,853	2,917	2,963	
	老津	3,653	3,582	3,489	3,365	3,213	3,048	
	杉山	4,211	4,908	5,188	5,396	5,598	5,850	
	豊南	2,679	2,717	2,743	2,759	2,763	2,747	
第7ブロック	福岡	13,841	13,745	13,579	13,233	12,812	12,333	減
	栄	15,402	14,866	14,230	13,441	12,593	11,771	
	中野	6,265	6,101	5,900	5,633	5,332	5,001	
	磯辺	12,422	12,691	12,849	12,840	12,717	12,534	
	天伯	5,518	5,601	5,893	5,930	6,154	6,250	
	幸	15,272	15,280	15,171	14,844	14,391	13,820	
第8ブロック	高師	12,176	12,051	11,818	11,404	10,867	10,245	微増
	芦原	9,959	9,833	9,602	9,215	8,774	8,305	
	大崎	3,677	3,862	4,040	4,206	4,370	4,533	
	植田	4,942	4,932	4,855	4,730	4,582	4,432	
	野依	7,420	8,331	9,332	10,395	11,480	12,721	
	大清水	7,242	7,444	7,613	7,715	7,756	7,747	
第9ブロック	花田	8,628	8,245	7,821	7,359	6,904	6,452	増
	羽根井	8,461	8,457	8,412	8,280	8,113	7,909	
	吉田方	16,273	17,585	18,900	20,204	21,554	22,981	
	牟呂	13,619	13,706	13,790	13,815	13,753	13,629	
	汐田	7,951	8,003	8,572	9,206	9,768	10,266	
第10ブロック	下地	6,216	6,216	6,185	6,071	5,944	5,809	増減なし
	大村	3,619	3,634	3,623	3,593	3,541	3,452	
	津田	3,922	3,969	3,991	3,982	3,936	3,879	
	前芝	4,053	3,981	3,896	3,785	3,658	3,511	

2 財政状況

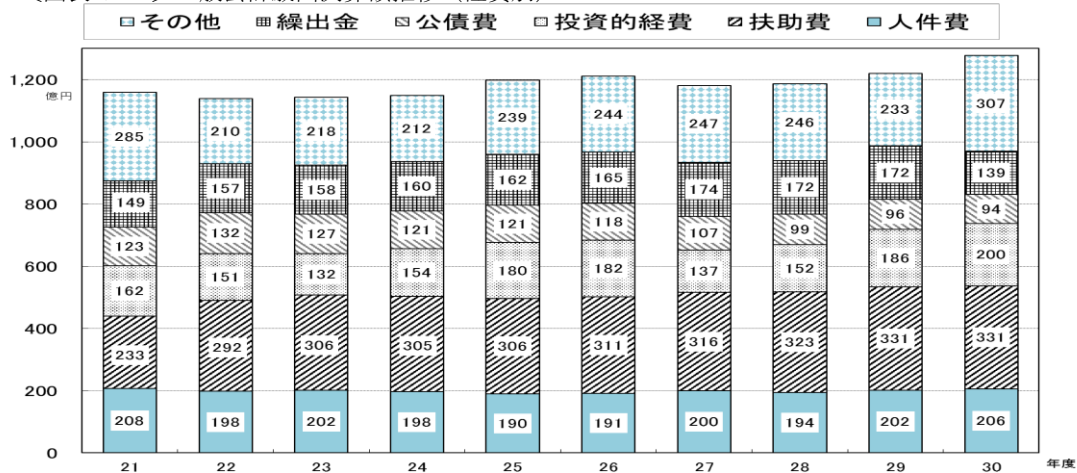
(1) 歳入歳出決算額の推移

本市におけるここ10年の歳入及び歳出決算額は、おおよそ1,100億円から1,300億円
で推移しています。しかしながら、歳入の中心となる地方税は、景気動向に大きく左右さ
れ、かつ国の政策等の影響を受けやすいため、本市の財政は、今後も厳しい状況が続くと
想定されます。また、高齢化の進行等に伴い、社会保障費が増加すると見込まれ、将来を
見据えたまちづくりを推進するための投資的経費の確保と合わせて、バランスのとれた財
政運営が求められます。将来の財政負担を軽減し、限られた財源の中で屋内スポーツ施設
の更新や維持管理を適切に行っていくためには、計画的な建替えや大規模改修等の取組み
が必要です。〔図表IV-4、IV-5〕

〔図表IV-4〕 一般会計歳入決算額推移



〔図表IV-5〕 一般会計歳出決算額推移 (性質別)



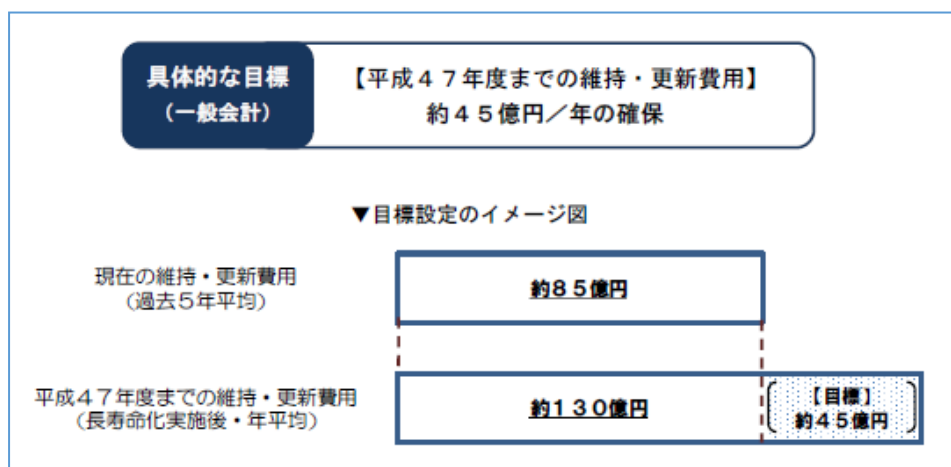
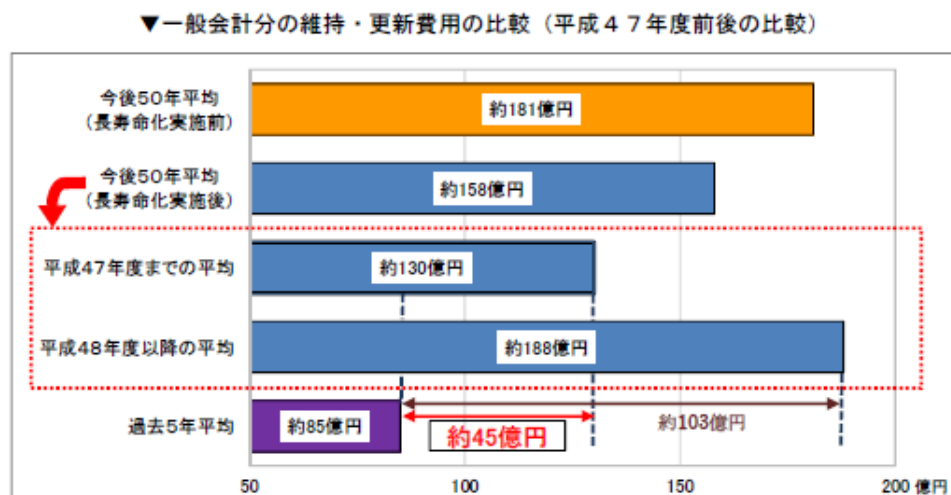
(2) 公共施設維持更新費用の今後の見通し

豊橋市公共施設等総合管理方針において、地区体育館など校区や地域に設置された施設については、各校区の人口の動向を注視し、効果的・効率的な活用を行うとともに、立地適正化計画など他の施策と連携して適正化を図る必要性を示しています。また、総合体育館など全市的な施設については、広域的利用の観点を持ち、隣接する市町村との相互利用を視野に入れた有効活用と維持管理費の軽減の必要性も示しています。

加えて、同方針では長寿命化によって更新時期を延伸させたとしても、2035年までの施設の維持更新費用は、一般会計で年平均約45億円増加するとしており、当該金額の抑制を図ることを具体的な目標としています。

この目標の達成のための取組みとして、スポーツ施設においては、人口減少などによる施設利用の変化に対し状況を把握し、施設の設置目的や利用形態などを確認しつつ、建替えの場合における複合化や廃止の検討をすることとしています。〔図表IV-6〕

〔図表IV-6〕 公共施設維持更新費用の今後の見通し



(豊橋市公共施設等総合管理方針より抜粋)

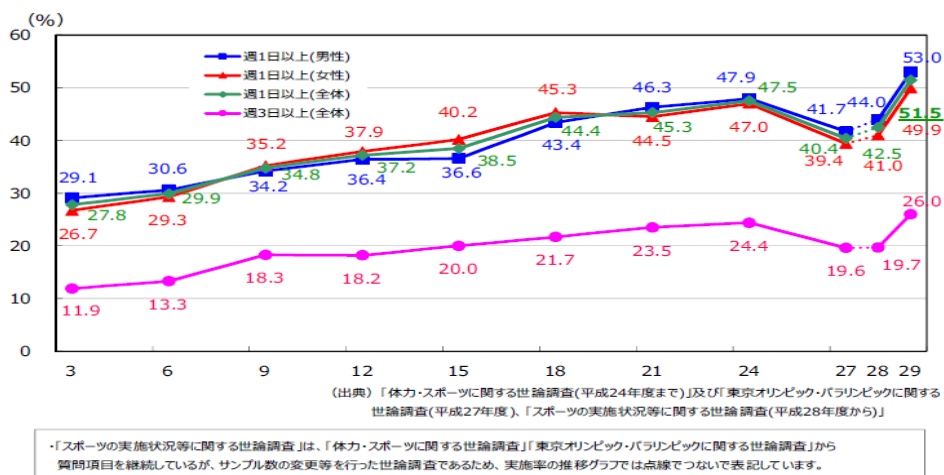
3 スポーツを取り巻く今後の見通し

(1) スポーツへの関心の高まり

スポーツは、自ら「する」ことで体力向上・健康増進に役立つだけではなく、地域のつながりを作る、観戦し応援する楽しみを生む、ファン同士の交流を生むなどの効果を通じて人生を豊かにします。また、スポーツ庁が行った「スポーツの実施等に関する世論調査」においては、成人のスポーツ実施率に増加傾向があるなど、スポーツへの関心が高まりつつあることがわかります。〔図表IV-7〕

さらに、国の日本再興戦略 2016 において、2012 年の時点で 5.5 兆円であったスポーツ関連市場を、2025 年には 15 兆円まで拡大させることを数値目標としているなど、スポーツの経済的側面を活用した地域活性化が期待されています。スポーツは産業としての裾野が広く成長の見込める分野であることから、今後は「する」スポーツだけではなく、「観る」「支える」スポーツにも視点を広げまちづくりに活かすことが求められています。〔図表IV-8〕

〔図表IV-7〕成人のスポーツ実施率の推移



(出典：スポーツ庁 HP)

〔図表IV-8〕我が国のスポーツ市場の拡大

スポーツ産業の活性化の主な施策	2012年	2020年	2025年
(主な政策分野) (主な増要因)	5.5兆円	10.9兆円	15.2兆円
スタジアム・アリーナ ⇒ スタジアムを核とした街づくり	2.1	3.0	3.8
アマチュアスポーツ ⇒ 大学スポーツなど	—	0.1	0.3
プロスポーツ ⇒ 興行収益拡大(観戦者数増加)	0.3	0.7	1.1
周辺産業 ⇒ スポーツツーリズム・食産業など	1.4	3.7	4.9
IoT活用 ⇒ 施設、サービスのIT化進展とIoT導入	—	0.5	1.1
スポーツ用品 ⇒ スポーツ実施率向上、健康経営など	1.7	2.9	3.9

※この数値は2012年時点で市場が存在しない大学スポーツなどのアマチュアスポーツや、IoTを活用したスポーツの高付加価値化も市場に含め試算しています。(スポーツ庁資料をもとに作成)

(2) 学校体育施設と民間スポーツ施設

■学校体育施設

豊橋市立小中学校及び特別支援学校などでは学校体育施設開放事業を実施しており、授業の時間外で空いた学校体育施設を市民に開放しています。このうち体育館における平成26年度の稼働率は全体で約63%、平成30年度の稼働率は約60%と概ね6割前後で推移しています。スポーツを「する」ニーズが高まりを見せる中、今後も既存の学校体育施設を有効活用し、市民の「する」スポーツのニーズに応えることが重要になります。〔図表IV-9〕

〔図表IV-9〕 地域ごとの学校体育館の学校開放稼働率

ブロック名	校区名	平成26年度	平成30年度
第1ブロック	石巻、西郷、玉川、嵩山、賀茂	48.36%	53.30%
第2ブロック	東田、旭、牛川、下条、鷹丘	74.96%	65.69%
第3ブロック	岩田、豊、多米、岩西、つつじが丘、飯村	68.99%	64.78%
第4ブロック	八町、松葉、松山、新川、向山	55.36%	57.10%
第5ブロック	二川、二川南、谷川、小沢、細谷	52.47%	48.11%
第6ブロック	富士見、高根、老津、杉山、豊南	60.63%	59.32%
第7ブロック	福岡、栄、中野、磯辺、天伯、幸	64.02%	60.25%
第8ブロック	高師、芦原、大崎、植田、野依、大清水	62.28%	59.32%
第9ブロック	花田、羽根井、吉田方、牟呂、汐田	73.26%	66.35%
第10ブロック	下地、大村、津田、前芝	67.17%	64.10%
全体		62.75%	59.83%

・稼働率の計算方法

年間利用回数／年間利用可能回数

分割して利用できる施設については、年間利用回数／年間利用可能回数が100%を上回る場合、同時に2団体利用していると仮定し稼働率100%として計算

・学校体育館の利用可能時間

平日 1回 (18:00～22:00)

土日祝 3回 (9:00～12:00、13:00～17:00、18:00～22:00)

■民間スポーツ施設

本市の屋内スポーツ施設は、1970年代以降、公共が中心となって整備してきた背景があり、当時整備された施設を活用しながら、「する」スポーツの振興が図られてきました。

プロ野球やJリーグに代表されるように、スポーツの観戦が盛んになってきた1980年代・1990年代以降、スポーツ施設に求められる環境が徐々に変わっていく最中においても、プロ仕様のスタジアムやセントラル機能を備えた体育館など大規模なスポーツ施設の整備や管理の多くは公共が担ってきました。

こうした中、「物質的な豊かさ」から「心の豊かさ・質の豊かさ」が求められる時代へ変化していく過程で、ランニングやフィットネス、スイミング、テニスなど個人レベルの「する」スポーツのニーズに対して、民間による本格的な参入が都市部を中心に始まりました。

住民ニーズが多様化しスポーツへの期待が高まる一方、人口減少が進む中でも持続可能性を保ちながらスポーツ環境を維持・充実させていくためには、民間のスポーツ施設やノウハウを活かした総合的な環境整備をする視点が重要になります。

V 屋内スポーツ施設のあり方

1 基本的な考え方

本市のスポーツ振興を図る上で、屋内スポーツ施設は実施可能なスポーツ種目が多く、子どもから高齢者まで多くの方が様々なスポーツに親しむ場所として、市民の充実した暮らしに大きく寄与していることが今回の調査において改めて確認することができました。

特に、今回の利用者アンケートから、現在の屋内スポーツ施設は「する」スポーツの場として、快適な環境や利便性を求める意見が大変多く、将来の屋内スポーツ施設には、こうした質の向上や充実といったニーズへの対応が必要になることが明らかとなりました。

一方で、人口減少時代に入り厳しい財政状況の中、持続可能な都市経営を行っていく上で、屋内スポーツ施設の質の向上・充実を図りながら、これまで通りの量を維持していくことは困難な時代が到来しております。

こうした状況下においても、将来にわたって市民の誰もが気軽にスポーツを楽しめる環境を確保し生涯スポーツの振興を図っていくため、以下の考え方に沿って取組みを進めます。

○広域的な拠点であるとともに本市唯一の施設である総合体育館については、ニーズや実態を踏まえながら、新たな時代に見合った改修を施すなど、計画的に施設の充実を図ります。

○10館配置されている地区体育館については、建物の安全性や機能性、経済性といった基本的な情報、さらには現在の利用実態や将来を踏まえたニーズなどを考慮した上で、豊橋市公共施設等総合管理方針を踏まえ、施設数を減らしながらも機能や利便性を向上させるなど質の充実を図ります。

○新たな屋内スポーツ施設として整備を検討している新アリーナについては、将来的に拠点性が高まる施設として機能集約を図るとともに、武道館等を含めた機能の複合化を図っていきます。

2 屋内スポーツ施設の今後の方向性

◆価値ある施設へと転換させます

施設の改修・建て替え等を行っていくにあたっては、今後の利用見込みやニーズを踏まえ、利用者にとって利便性が高く快適にスポーツを楽しむことができる価値ある施設への転換を図ります。

○取組み例

- ・大規模改修時における機能の見直し（空調機の導入、観覧席の導入等）
- ・障害者にもやさしい施設への転換（バリアフリー化等）

○効果

- ・スポーツへのきっかけづくり・ファンづくり
- ・施設の利便性の向上による利用者の増加 　　など

◆ニーズと実態を踏まえた施設運営をします

利用者ニーズと施設運営とが合っていないものも見受けられますので、現行の運営方法を見直し利用者にとって利便性が高くなるような取組みを進めます。

○取組み例

- ・新たな利用料金区分の検討
- ・指定管理者制度による柔軟な施設運営

○効果

- ・効率的な施設利用
- ・利用者の満足度向上 　　など

◆財源を確保し施設の充実に図ります

今後も安心・安全な施設を提供するための維持管理コストを賄うため、受益者負担に基づく施設経営を行っていきます。また、民間資金など新たな財源の積極的な活用を図るなどの財源確保に努めます。これらに加え、独立行政法人日本スポーツ振興センターが、スポーツ振興くじの収益により助成を行っていますので、こういった財源を活用しながら施設の質の充実に図ります。

○取組み例

- ・新たな財源確保
- ・施設の価値に応じた受益者負担の導入

○効果

- ・財政負担の軽減
- ・充実した施設環境の確保 　　など

◆学校体育施設の開放による対応を促進します

スポーツ基本法第13条では「学校教育法第二条第二項に規定する国立学校及び公立学校の設置者は、その設置する学校の教育に支障のない限り、当該学校のスポーツ施設を一般のスポーツのための利用に供するよう努めなければならない」旨が規定されており、市民が気軽にスポーツをすることができる環境を整えるためにも、特に地域住民が日頃の運動のために利用できる場として、学校体育施設の開放による対応を促進します。

○取組み例

- ・学校体育施設への誘導
- ・利用者への理解促進

○効果

- ・学校体育施設を含めたスポーツ施設利用率・稼働率の向上
- ・「する」スポーツ環境の確保 など

◆民間ノウハウを活用します

スポーツ施設については、スポーツジムやスイミング等において既に民間事業者によるビジネスが成立していることも踏まえ、民間ノウハウをさらに活用できるよう連携・共有を図るなどして、公共と民間とを含めたスポーツ環境の確保に努めます。

○取組み例

- ・民間スポーツ施設との情報連携
- ・民間が参入しやすい環境整備

○効果

- ・ニーズに応じたスポーツ環境の確保
- ・スポーツ実施率の向上 など

新アリーナの検討状況について

1	新アリーナ整備の検討経緯について	3
2	新アリーナの再検討について	3
	(1) 新アリーナの必要性について	
	(2) 新アリーナの再検討内容について	
	(ア) 建設候補地について	
	(イ) 民間の持つ資金やノウハウを活用した整備手法について	
	(a) 整備手法の比較	
	(b) 整備期間の検討	
	(ウ) 施設の複合化について	
3	基本的な考え方について	5

1 新アリーナ整備の検討経緯について

総合体育館は、建設後約 30 年が経過し、老朽化が進んでいることから大規模改修等を行う必要性が生じています。また、平成 28 年度より三遠ネオフェニックスが総合体育館をホームアリーナとしたことで、利用の過密化が以前にも増しています。

これらの状況を踏まえ、本市では、平成 28 年度より B 1 リーグ基準である 5,000 人を収容可能な新アリーナ整備の検討を開始し、市民負担を最小限に抑えるため、民間の持つ資金、ノウハウを最大限活用した整備手法について検討を進めてきました。

このような検討の結果、平成 30 年 3 月から、新アリーナの整備と運営に関する提案を民間より募集し、選定された協議対象者と事業実施に向けた協議を進めてきました。しかし、協議対象者との事業実施に関する協議が整わず、令和元年 7 月に協議を終了することとなり、新アリーナの整備については再検討を行う必要が生じました。

2 新アリーナの再検討について

(1) 新アリーナの必要性について

新アリーナ整備の再検討を行うに際し、改めて新アリーナの必要性について検討を行い、以下の点から新アリーナの整備はこれまでと同様に本市にとって必要と考えています。

- ① 総合体育館は老朽化が進んでいることから大規模改修等を行う必要がある。
- ② 総合体育館の利用の過密化を解消しなければならない。
- ③ スポーツ観戦の来場者による経済効果をまちづくりに活用していく必要がある。
- ④ 市の中心部に新アリーナを設置することで、防災活動の拠点としての活用が可能になる。

(2) 新アリーナの再検討内容について

再検討については、民間の資金やノウハウを活用しながら 5,000 人を収容するアリーナを整備するという考え方を変えず、B リーグや他都市の状況などについて関係機関に多角的に情報収集を行いながら、整備手法など様々な可能性を含めて検討を行いました。

そのような中、民設民営による整備については、実現に至るような結果は得られませんでした。

一方、公設による整備については、新アリーナの建設場所、民間資金やノウハウの活用、施設の複合化などの視点で検討を行いました。その検討内容を以下に示します。

(ア) 建設候補地について

新アリーナの建設候補地については、以下の理由により引き続き豊橋公園を有力な候補地として検討を進めていきたいと考えています。

- ① スポーツによるまちのにぎわいづくり

プロスポーツを「観る」拠点にもなる新アリーナは、市内外から多くの集客が見込まれ、新たなまちのにぎわいの拠点となることが期待される。

② 都市機能の集積によるコンパクトなまちづくり

豊橋公園は、都市機能の集積を図るため、文化・スポーツ施設、行政施設などの広域機能を有した施設の維持・誘導を図る地域となっている。

③ 防災拠点としての整備

豊橋公園は市の中心部にあり、災害時には多くの市民が集まることができ、また、市役所や豊橋警察署などの公共機関と隣接していることから効果的な連携も可能であると考ええる。

(イ) 民間の持つ資金やノウハウを活用した整備手法について

新アリーナの整備については、民間の資金やノウハウを活用することに加え、総合体育館の老朽化対策や利用の過密化の早期解消のため、整備期間の短縮や建設コストの縮減を図ることが重要であると考えており、そのために有効な整備手法などについての検討を行いました。

(a) 整備手法の比較

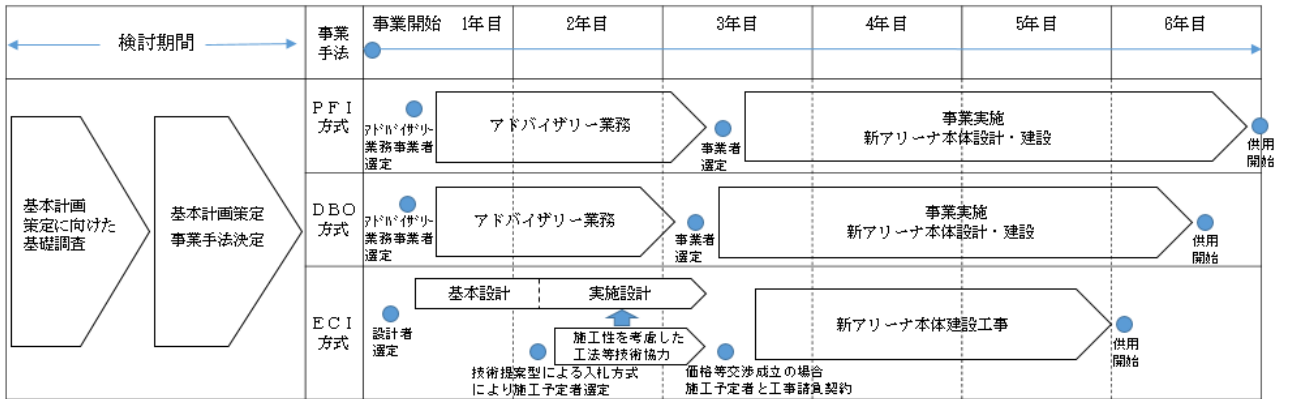
〔図表1〕整備手法の比較

	PFI (BTO) 方式 (プライベート・ファイナンス・インフラティブ)	DBO方式 (デザインビルトオペレート)	ECI方式 (アーリー・コンストラクター・インボルブメント)
発注形態	設計、建設、維持管理、運営を一括発注 (性能発注)	設計、建設、維持管理、運営を一括発注 (性能発注)	設計段階において施工予定者を選定し、施工予定者が設計者に技術協力をを行い、より施工に即した設計を行う。実施設計完了後、施工予定者と協議のうえ、工事請負契約を締結 (仕様発注)
資金調達	民間	公共	公共
期待される効果	・民間事業者のノウハウや技術的能力が活用でき、公共サービス水準の向上が期待できる。 ・財政負担の平準化が図れる。	・民間事業者のノウハウや技術的能力が活用でき、公共サービス水準の向上が期待できる。 ・PFIの場合に比べ資金調達コストが低い。	・設計段階から施工者のノウハウを反映し、進めることができるため、工期短縮、建設コスト縮減効果が期待される。

(b) 整備期間の検討

上記の整備手法により新アリーナを整備する場合の整備期間の検討を行いました。

〔図表2〕 整備期間の検討



※一般的な事例を参考にした現時点での想定整備期間であり、今後の精査等によって変わる可能性があります。

(ウ) 施設の複合化について

新アリーナの整備にあたっては、現在の公共施設のうち老朽化した施設との統合・複合化をあわせて検討していくことが、多機能化による利便性の向上や建設・運営コスト削減を図るうえで効果的であると考えており、建設後 40 年以上が経過している武道館等との複合化も視野に入れながら検討を進めていきたいと考えています。

3 基本的な考え方について

新アリーナの整備については、豊橋公園内に 5,000 席を基本とし、武道館等との複合化を視野に進めたいと考えています。また、財源については民間の資金や国・県等の補助金、交付金を活用することを基本に検討を進めていきます。

しかしながら、新アリーナの詳細な規模や機能については、次に掲げるような未確定な要素があるため、現時点ではお示しする段階にないと考えており、これらについて引き続き情報の整理に努めていきます。

〔未確定な要素〕

- ・次年度に策定される第6次豊橋市総合計画や豊橋市公共施設等総合管理方針（個別計画）で今後の公共施設の考え方を示す予定になっている。
- ・屋内スポーツ施設のあり方調査の結果に更なる分析を加える必要がある。
- ・2026年以降のBリーグライセンスについて、施設基準が示される時期が不透明である。
- ・民間資金の支援の可能性を探る必要がある。

また、豊橋公園の再整備については、新アリーナの規模や機能に大きく影響を受けるため、新アリーナ整備の検討とあわせて既存のスポーツ施設を含めた豊橋公園全体の再配置について検討を進めていきたいと考えています。